



一般社団法人名古屋工業会会誌

こきそ

2024 夏号

〔2024年度定期総会報告〕

〔学位記授与式・入学式〕

2023年度学位記授与式

2023年度名古屋工業会賞贈呈

2024年度入学式

〔学生コーナー〕

エンジョイベースボール

〔ホットライン〕

表彰者紹介

名古屋工業会基金 学生Q1ジャーナル賞表彰式

永年勤続退職者に感謝状授与

〔情報ネットワーク〕

支部報告・会員ニュース

No.519

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

理事長 横山裕行

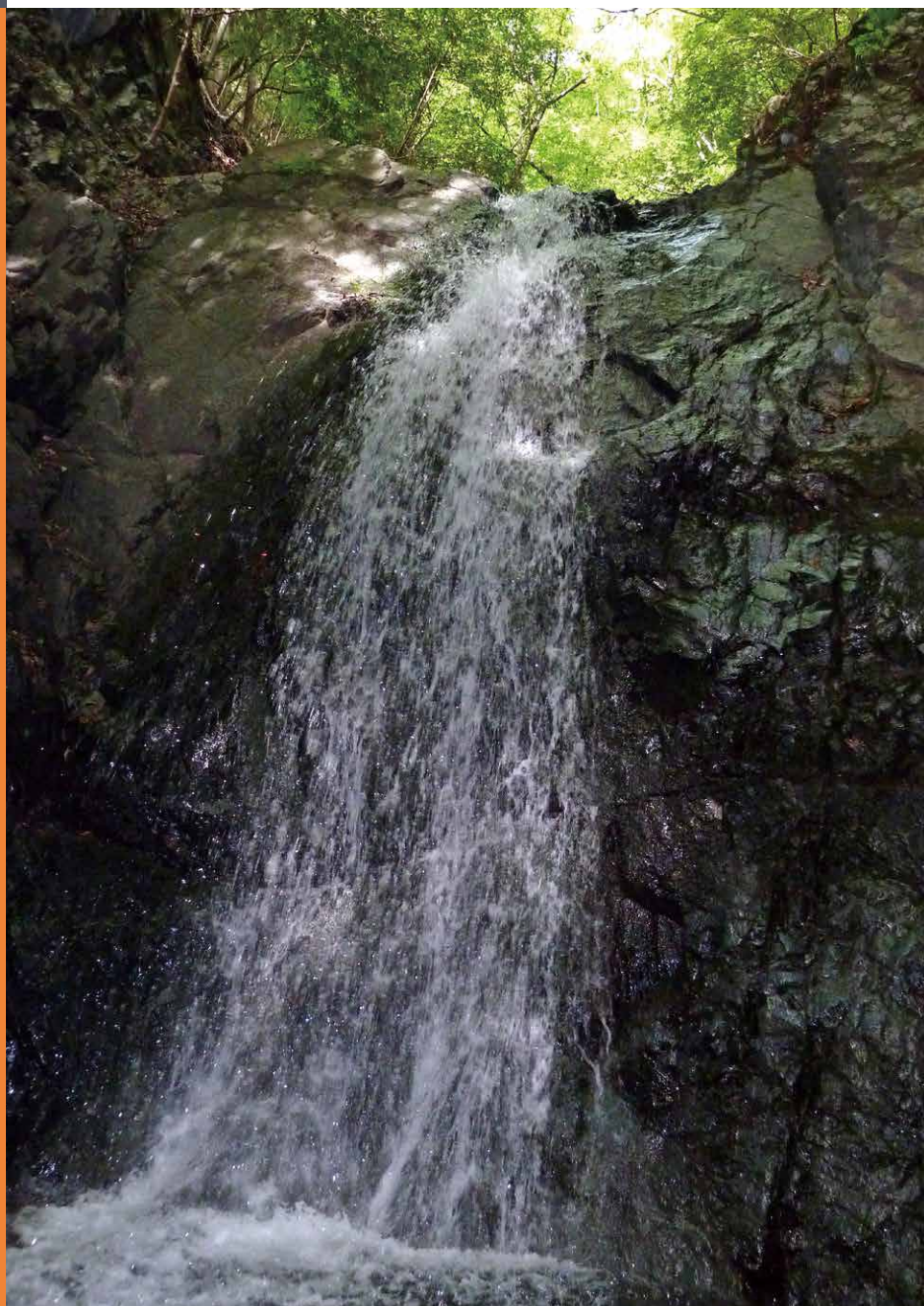
〒466-0061 名古屋市昭和区御器所町字木市29番
国立大学法人名古屋工業大学 校友会館内

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



2024年度計測会総会・講演会の御案内

下記の通り御案内致します。講演会、懇親会には計測会員以外の方も歓迎致しますので、是非、お気軽に御参加下さい。計測会員の方には、別途、電子メールでも御案内連絡致します。

日 時：2024年9月28日(土) 14:00～15:45

・14:00～15:00 総会 ・15:00～15:45 講演会

場 所：名工大構内 4号館1Fホール ZOOMオンラインとの併用

懇親会：16:00～17:30 名工大構内 レストランcafé sala 会費：4,000円(予定)

【総 会】

・計測会長挨拶 ・来賓御挨拶 ・活動報告 ・決算報告 ・役員紹介 ・会員スピーチ、意見交換

【講演会】

演題 「御器所での30年」 (仮題)

講師 名工大 名誉教授 市川 洋 氏 (S56 計測工学科卒、前教授)

【参加申し込み】

電子メールにて、下記事項を明記の上、お申し込み下さい。 締め切り 9月17日

宛先アドレス kei-soku@worldtech.co.jp

- ・御氏名 ・卒業学科 ・卒年 ・電子メールアドレス ・現在の居住地(例：愛知県刈谷市)
- ・出席方法 会場参加/ZOOM参加 ・懇親会への出欠

【ご参考】

昨年度の総会・講演会の様子は以下の計測会HPを御覧下さい。

<http://www.keisokukai.org/posts/activity10.html>

【計測会についての補足説明】

- 計測会の会員は以下の学科の卒業生および関連研究室の大学院修了者です。

計測工学科、生産システム工学科 計測コース、機械工学科 計測系プログラム

物理工学科 応用物理分野

- 計測会では会費、入会金はありませんが、必要に応じて運営協力金をお願いしています。

- 会員とは電子メールのみで連絡をとっており、郵便物はありません。

メールマガジンが届いていない会員の方は、電子メールアドレスを御連絡下さい。

連絡先は、kei-soku@worldtech.co.jp です。

記：計測会役員 野村 正裕(F55)

表紙写真説明

「夏・丹沢」

撮影者 安村隆志 (W①)

2024年度 定期総会 次第

1. 議 事

(決議事項)

第1号議案 2023年度事業報告及び収支決算案について

第2号議案 2024年度事業計画及び収支予算案について

第3号議案 役員の選任について

(報告事項)

第4号議案 その他

2024年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 一般社団法人名古屋工業会理事長

2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事

イ 叙勲受章者へ記念品贈呈（敬称略）

伊藤周雄 玉田欽也 辻田義治

ロ 名古屋工業大学卒業満70、60、50、40周年の会員へ記念品贈呈（敬称略）

(70年—昭和29年卒) —35名

C 荒川尚晃 始3名	A 中村 弘 始3名	M 島ノ上正憲 始6名	E 伊藤英輔 始10名
W 天野敏正 始4名	D 佐藤茂男 始5名	Y 伊藤富彦 始3名	K 堀 静治

(60年—昭和39年卒) —89名

C 石田 昭 始11名	A 遠藤順彦 始10名	M 河田 洋 始12名	E 笠野宏之 始11名
W 安間 順 始8名	D 梅村光雄 始16名	Y 笹島 康 始5名	K 二杵幸夫 始10名
F 石寺 孝 始6名			

(50年—昭和49年卒) —80名

C 吉川 明 始11名	A 村上貞明 始7名	M 世良通利 始15名	E 丸本秀一 始8名
Es 吉野伸夫 始3名	W 青山克己 始3名	D 川原盛雄 始6名	G 伊神峰生 始4名
Y 鈴木直樹 始3名	K 横山裕行 始7名	F 大鑄史男 始6名	B 加戸孝太郎 始7名

(40年—昭和59年卒) —120名

C 堀口大輔 始18名	A 河邊伸二 始13名	M 岩田忠三 始20名	E 早川正志 始8名
Es 沢村豪人 始7名	W 児山泰也 始4名	D 斎藤三也 始12名	G 天野 透 始6名
Y 大島 隆 始7名	K 虫明正博 始8名	F 安面隆史 始6名	B 都築進司 始6名
J 加藤清二 始5名			

ハ 特別講演

講師：種村眞幸 氏（F56）名古屋工業大学教授

演題：「ナノの世界と現実の世界のはざままで・・・」

～ナノサイズの材料の環境に優しい合成と実用化～

5. 懇親会

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会

理事長 横山裕行 (K49)

本日は、大変お忙しいなか、全国から支部長、代議員、会員の方々にはご出席いただき、ありがとうございます。日頃は、各支部におかれましては活発な活動を展開していただき、感謝いたしております。新型コロナウイルスが収まり2年を経て、ほぼ従来の形でこの会が開催できることを、大変うれしく思います。

年初の能登半島地震に際し、名工大北川啓介教授のインスタントハウスへの御支援をお願いしたところ、たくさんの寄附をいただきました。心より感謝いたします。

さて、私は名古屋工業会の理事長に1年前に就任いたしました。そのときに「N.I.T」になぞらえて、「N-なかまと、I-いつまでも、T-つながろう」を旗印に活動を進めたいと話しました。1年を経て、一番難しいのは「T-つながろう」だと実感しております。会員どうしの、本部と支部との繋がりが、少しずつ弱くなっていることについて懸念しております。

ここ10年ほどは、学生の入学と同時に工業会に入会していただくようにしており、8、9割の学生が加入しています。その方々が卒業し社会に出られていますが、なかなか繋がりがもてないことが、課題となっています。昨今、個人情報保護等もあり、会員の消息をつかむのが大変難しくなっています。若い方々と繋がりを持つことができなければ、先々心細いことになっていきます。

また、企業内での同窓会活動が新型コロナウイルス感染症で停滞し、復活できていないところもあります。

このため会員とのパイプを太くしていくことを考えています。同窓会誌「ごきそ」を住所の



分かる会員全員に送付し、そこからのフィードバックにより会員の方々の連絡先、メールアドレスなどの情報を得て、パイプの修復を図ろうと考えております。また、このことを契機としてデジタル化も進めていきたいと思っております。

次に大学との連携強化についてです。

名古屋工業大学と名古屋工業会は運命共同体です。学長が交代されましたが、これを機会にいままで以上に連携し、お互いにとってメリットのある形で活動していくことが大変大事であると思っております。

大学にステークホルダーミーティングという会議が組織されています。地元企業、大学、後援会などがメンバーとなっており、OB会代表として工業会も入ることになりました。そのような場を通じて、大学の活動に協力できること、また、こちらからお願いしたいことなどについて、コミュニケーションが図れるようになると考えています。

本日は、限られた時間となりますが、みなさんと接点をもてる時間がありますので、是非意見をお聞かせいただければありがたく思います。そのことをお願いしまして、開会の挨拶に替えたいと思っております。本日は、よろしく申し上げます。

会 長 挨 拶

国立大学法人名古屋工業大学長
一般社団法人名古屋工業会会長
小畑 誠

本日は名古屋工業会の総会の開催、まことに
おめでとうございます。

先ほどの理事会で会長に任命されました、小
畑でございます。大変恐縮しております。

さて、わたくしは今年4月に名古屋工業大学の
学長に就任いたしました。少し時間をいただき
まして、名工大のここ1年の様子などを紹介さ
せていただきたいと思います。

まず教育に関してですが、今年度の入試では
募集定員930名のところ前期・後期その他をあ
わせて4473名の志願者があり、最終的には973名
が入学いたしました。うち女子学生は183名、率
にして19%と国立大学の工学部としてはトップ
クラスの実績を残しております。また過去10年
で18歳人口は10%減じているなかで志願者の数
は減少せず横ばいとなっており、本学に対する
社会からの期待が大きいことのあかしだと考え
ています。

物理工学科、情報工学科そして社会工学科の
環境都市コース(土木)で女子推薦枠を設置した
のも新しい動きです。ただ、ご存じのとおり18歳
人口はあと10年以内に坂道を転げ落ちるように
急激に減っていくわけですので、わたくしども
としてはいろいろな方策でそれに備えようとし
ているところであります。

一方、大学院については入学者731名となっ
ています。大学院では今年から修士課程でも工学
専攻に一本化され、あらたに「未来通信」「カー
ボンニュートラル」「医学工学」といった分野融
合のプログラムも発足しました。さらに博士課
程では、ドイツのエアランゲンニュルンベルク
大学と共同学位プログラムを発足させました。
専攻の名前は「国際連携エネルギー変換システ



ム専攻」であり、共同学位のプログラムとしては
オーストラリアとのウーロンゴン大学との国際
連携情報学専攻に次いで2番目となります。す
でにドイツからの留学生も早速迎え入れている
ところであります。

研究面でのトピックとして、本学は工科系の
単科大学でありますので、小回りがきくという
ことで他大学・他機関との機動的な連携を積極
的に推し進めています。今年度のものも含め
れば、大同大学、藤田医科大学、名古屋大学医学部、
岐阜県の恵那市などとあらたに連携をしていま
す。

さて昨年度のそのほかのトピックを少し紹介
させていただきます。

今年の元日に能登半島地震があったわけですが、
社会工学類の北川教授の開発されたインス
タントハウスによる支援活動は特筆すべきもの
です。本学のHPに支援寄附金についてお願いし
たところ3か月で4千万円を超える寄附をいた
だきました。まことにありがとうございました。
本学はその寄附金をもって屋外に40基以上、屋
内に750基以上を設置しました。また5期にわ
たって教職員を被災地に派遣しました。これら
はマスコミ等で多数報道されたとおりです。

学生の活動では、情報危機管理コンテストで
情報工学専攻のチームが経済産業大臣賞を受賞
しています。また、情報工学科と電気・機械工学
科の学生のチームがキャンパスベンチャーグラ
ンプリで経済産業大臣賞ビジネス大賞を受賞す

るなど大活躍をしました。

教員では、今年の春には文部科学大臣賞の科学技術賞技術開発部門を、電気・機械工学類の平田教授と小寺准教授のチームが、また若手科学者賞を生命・応用化学類の片山准教授が受賞しました。また情報工学類の徳田教授が音声処理分野の最高の栄誉であるIEEE James L. Flanagan Speech and Audio Processing Awardを受賞されています。

最後に皆様方に大学への支援のお願いがございます。

皆様方のご協力もあり2023年度は個人・団体より1947件、約1億1千万円ご寄附をいただきました。改めてここにお礼を申し上げます。

本学は寄附として、用途を限定しない基金としては大学基金を、くわえて用途を指定する特

定基金も用意しています。特定基金には、クラブ活動、人材育成、アートフルキャンパス整備などがあります。ぜひ、HPの「寄附をする」のバナーをクリックしてご覧いただければ幸いです。

そのほかにも大学への支援策のひとつとして、ネーミングライツ事業も行っております。

すでにNITech Hallの2階のラーニングコモンズはセイコーエプソンが、また生協の大食堂はSky株式会社がネーミングライツを取得しています。また、名古屋市へのふるさと納税制度をつかって本学への支援も可能となっておりますのでご配慮いただけると幸いです。

以上、長くなりましたが、名古屋工業会のますますのご発展、そして本日の会のご盛会を祈念いたしましてわたしの挨拶とさせていただきます。



第3号議案 役員の選任について

2024年度 役員名簿

理 事(9)	横山裕行	K49	小山裕康	A54	代議員(88)	北海道(1)	佐川正人	C53	
	堀口大輔	C59	岩田忠三	M59		東 北(1)	鈴木 聡	C57	
	河邊伸二	A59	仁科 健	B50		東 京(7)	入矢桂史郎	C52	鹿島 孝 A59
	浅井英利	E58	名和修司	C59			三浦太朗	EC⑬	大久保智明 D57
	大鑄史男	F49					戸澤宏一	M55	飯沼義昭 B46
監 事(2)	森 秀樹	D52	川村信之	E53			北村明弘	K53	
						甲信越(2)	若林俊樹	M56	樋口 順 C48
相談役(9)	藤原俊朗	K31	牛込 進	Y33		静 岡(2)	玉木利幸	C52	向坂直久 Es60
	篠田陽史	M33	二杵幸夫	K39		三 河(12)	川口貴弘	F⑮	神谷貴臣 ZW⑩
	木越正司	C44	水嶋敏夫	M42			沼澤成男	M59	岩田忠三 M59
	岡崎格郎	A46	内藤克己	A43			佐藤文昭	ZK⑤	出崎 亨 K61
	○ 加川純一	K49					澤田義政	K63	服部和弘 E62
参 与(4)	張田吉昭	M43	北村 正	Es48			大野一成	ZK⑤	北 朋弘 FB⑥
	森川民雄	W45	大鹿秀正	F47		名古屋(25)	伊藤雅幸	D⑨	小川寛徳 D⑤
顧 問(7)	宇佐美貞夫	F40	北村健治	B40			兼岩 孝	C54	和田亮一 C62
	加藤作次	C40	河辺 彰	K40			藤田素弘	C60	山口 啓 C49
	伊藤要蔵	B42	清水益文	F44			井澤知旦	A51	杉戸厚吉 A53
	○ 水谷尚美	D42					武内博明	Mb①	富田庸公 Mb①
							三宅正人	E60	青木 睦 EJ④
支部長(22)							大塚孝信	CS⑳	森川民雄 W45
	北海道 ○ 山平英夫	C43					吉木 満	W56	犬塚正憲 D48
	東 北 羽鳥明満	C57					中野達夫	G50	伊藤龍美 D60
	東 京 浅井英利	E58					橋本 忍	ZY②	野々山尚志 Y63
	甲信越 若林俊樹	M56					小坂井孝生	K49	横山雅行 K52
	静 岡 石塚基一郎	C54					守田賢一	F47	大鑄史男 F49
	三 河 岩田忠三	M59					西村良博	F48	横山淳一 FB⑥
	名古屋 小山裕康	A54					犬塚信博	J62	
	尾 張 ○ 小久江智之	M53				尾 張(7)	伊藤美保	D44	服部重夫 Y43
	岐 阜 各務剛児	C53					小久江智之	M53	山口初一 E56
	北 陸 竹田敏洋	B41					大竹昌志	C54	小木曾春美 M55
	三 重 里 宏幸	C56					魚住弘一	D53	
	大 阪 堀口大輔	C59				岐 阜(7)	桐井光人	C59	田中清之 A54
	兵 庫 高柳 誠	C60					堤 喜治	M45	田中秀和 Es48
	岡 山 野村幸宣	C54					山田孝夫	W48	笹島 康 Y39
	広 島 大田一夫	C47					兼松克司	K42	
	山 口 岸田潤三	C58				北 陸(2)	黒田 茂	M47	吉岡正盛 B58
	山 陰 糸賀輝穂	C51				三 重(4)	里 宏幸	C56	浅野俊介 Y60
	香 川 藤川 智	E52					新堂紳一郎	C58	満仲朗夫 C59
	徳 島 福井雅彦	A52				大 阪(5)	川越英二	E47	坪田博隆 M51
	愛 媛 馬越陽一郎	C58					西川嘉一	G50	小山 明 A59
	高 知 山崎健司	A54					堀口大輔	C59	
	九 州 吉村 尚	A50				兵 庫(2)	西川芳久	C47	當舎良章 SC③
						岡 山(2)	虫明正博	K59	小倉俊彦 A58
						広 島(1)	大田一夫	C47	
						山 口(1)	川上為夫	W42	
						山 陰(1)	湊口民弥	A52	
						香 川(1)	前川浩一	SC⑩	
						徳 島(1)	福井一博	A46	
						愛 媛(1)	小松浩樹	CM⑳	
						高 知(1)	山内 健	C53	
						九 州(2)	平野富広	F58	吉村 尚 A50

○:新任候補者

【退任役員】 (理事)加川純一 K49 (参与)水谷尚美 D42 (顧問)阿部完二 D41
(北海道支部長)三田村好矩 F41 (尾張支部長)伊藤美保 D44

2023年度（令和5年度）事業報告

はじめに

2023年度は5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが第2類から第5類に変更されたのを機に、いままで滞っていた工業会本部、各支部、各単科会等の活動が活発となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の状態に戻り始めました。

5月に開催した定期総会、10月に開催した支部長会議など、リモート参加のハイブリッド方式によらず、対面方式で実施し、実際に顔を合わせてコミュニケーションをとることにより、新型コロナウイルス感染症により疎遠になりかけていた各支部等との関係性の再建を行いました。

総会時の特別講演会では、コンピュータの無い時代で、当時世界最高速の新幹線をいかに開発してきたかを一般社団法人日本鉄道電気技術協会顧問の下前哲夫様に対面でこそ伝わる非常に専門性の高い御講演をいただきました。また、OB・OGトップセミナーは、横山理事長自身の御経験を直接学生に伝えるべく、対面形式で行いました。

支部総会についても、新型コロナウイルス感染症拡大時は、各支部で延期又はリモート開催を余儀なくされていましたが、2023年度は、多くの支部で対面開催を行い、さらに見学会や講演会の復活など、新型コロナウイルス感染症拡大前の状態と同じように開催されました。

広報に関しては、正会員の獲得、拡大に結びつけるべく、今までの広報委員会や会誌「ごきそ」の見直しに着手し始めました。昨年、リニューアルしたホームページに関し様々な意見をいただき、さらに充実した内容のホームページとなるよう検討してきました。

昨年、開催した各単科会との連携会議を引き続き開催し、各単科会の懸案事項などの情報交換を行いました。

役員体制について、5月の総会から横山理事長はじめ、役員が大きく入れ替わり、新体制での1年目となりました。

2022年度に始めた工大祭期間中の「名工大歴史館」については、今回は2回目となり、大学の卒業生連携室と共催する形をとり、多数のチラシを配布するなどにより、初回を大きく上回る300人を超える来館者がありました。そのほか、大学支援、学生支援については、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準で実施しました。

財政については、主要な財源となっている新入生からの終身会費について大学と調整するとともに、学生への支援も行いました。

1月1日に起こった、「令和6年能登半島地震」の被災者支援のため、北川教授のインスタントハウスについて、会誌「ごきそ」のネット購読者、メールマガジン購読者及び各支部を通し全国の会員に対し、寄附をお願いする活動を行いました。

1 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）

2023年度海外研修・留学のために13か国に渡航したのべ40名の学生に対し支援を行った。

(2) 教育研究支援（大学の教育研究活動に対する支援）

ア OB・OGトップセミナーについて

横山裕行理事長を講師に「トヨタと共に50年」と題し、特に品質管理や仕事の進め方などについて、主に在学生260名に対し対面方式で講演を行った。この講演は、学部2年生必修科目の「産業論」の授業の一環としても位置付けられている。

イ 公開講座について

名古屋支部が大学に協賛し、「重要文化財名古屋テレビ塔と久屋大通公園整備について」と題するテーマで開催し、総勢120名の参加があった。

ウ 学生論文賞について

若手研究者支援として、今年度2回目となった「学生Q1ジャーナル賞（学生論文賞）」（Q1ジャーナルとは国際的な学術雑誌の影響力の評価で、トップの25%のグループです。）において、優れた研究成果を上げた大学院生4名を表彰した。

エ 定年退職教職員について

定年退職教職員の中でも永年にわたり、国立大学法人名古屋工業大学に勤務し、大学の発展に貢献し、大学の名誉を高める行為又は他の教職員の模範となる善行を行った勤務成績の良好な教職員に対し、その功績をたたえ、3名に対し感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援（学生の人材育成に対する支援）

ア 学生の海外研修・留学支援

2023年度海外研修・留学のために13か国に渡航したのべ40名の学生に対し支援を行った。(再掲)

イ 名古屋工業会賞の授与

学長から推薦のあった成績優秀な19名の卒業生に名古屋工業会賞として表彰状と記念品を贈呈した。

ウ 経済的に支援を必要とする者への給付型奨学金の授与

経済的に支援を必要とする8名(各学年2名)の学部学生に対し、名古屋工業会給付型奨学金を継続して支給した。

エ 留学生後援会への支援

留学生の交流事業や修学援助及び生活支援のため、留学生後援会を支援した。

オ 挑戦的課外活動団体支援

卓越枠として世界大会への出場、全国大会等での上位入賞又は高度枠として国立大学等の全国大会、中部地域、東海地域、工業大学間等での上位入賞若しくはこれらの目標に積極的に挑戦している課外活動等団体を対象に広く支援を行った(12団体)。

カ 工大祭への支援

4年ぶりに入場等制限が全廃されての開催となった工大祭に対し支援を行った。

キ 鶴桜会への支援

名古屋工業大学女性卒業生で組織する鶴桜会(OG会)に対し支援を行った。

ク 就職活動支援(学生会員)

学生の就職・キャリア支援のため、その関係する各単科会が開催する講演会、セミナー、懇話会等に対し支援を行った。

ケ 在学生及び保護者に対する大学の各種情報提供の支援

会誌「ごきそ」No.512号を学生会員に配布し、学生及び保護者への情報提供を行った。

(4) 大学基金への寄付について

名古屋工業会ホームページ、会誌「ごきそ」紙面及び工大祭開催期間中の「名工大歴史館」来訪者に対し、大学への寄附を呼びかけた。

(5) 1月1日に発生した、「令和6年能登半島地震」に対する被災者支援の活動をされている北川教授のインスタントハウスについて、会誌「ごきそ」のネット購読者、大学発行のメールマガジン購読者及び各支部を通し全国の会員に対し、寄附をお願いする活動を行った。

(6) その他

各種会議において、大学への寄附をお願いするパンフレットを配布した。

2 名古屋工業会の充実のための事業

(1) 会員増強活動

ア 会員拡大に向けた支援

各支部開催の行事において、正会員だけでなく登録会員の参加についても行事支援を行うことにより、入会の契機をつくり会員拡大に向けた取り組みを行った。

イ 卒業生への活動

学位記授与式において、工業会賞を授与するとともに理事長が卒業生・修了生に対しメッセージを伝えた。

ウ 新入生への活動

2023年度入学式において、犬塚副学長(当時)及び仁科常務理事から新入生の父母に対し、名古屋工業会の多岐にわたる活動内容が紹介され、未加入者への加入の呼びかけ及び全学同窓会である名古屋工業会の意識付けを行った。

エ 在学生への活動

OB・OGトップセミナーを通じ、学部2年生在学生を中心に多くの学生に名古屋工業会を紹介した。(再掲)

オ 挑戦的課外活動団体支援の公募制による認知度アップについて

挑戦的課外活動支援については、公募方式により12団体を支援したことにより、工業会の認知度をアップさせた。(再掲)

カ 大学との共催であった工大祭期間中の「名工大歴史館」において、名古屋工業会への寄附活動を行うと共に、来訪者の方々に名古屋工業会への理解を深めてもらった。

キ 正会員の状況

新規入会者

新入学生（一括納付による終身会員）

2023年度 897名 2022年度 854名

2021年度 882名 2020年度 866名

卒業生等

終身会員21(23)名、年度会員5(2)名、 合計26(25)名

OBの2023年末の会員状況

対象者（登録会員）71, 414(70, 519)名

正会員 19, 218(18, 361)名

（内訳 終身会員16,753(15,873)名、年度会員2,465(2,488)名）

会員入会率26.9(26.0)%

(2) 活性化活動

ア 会員交流及び広報活動

(ア) 会誌「ごきそ」の発行

会員に対する大学情報の提供と会員間交流情報の媒体として、会誌「ごきそ」を隔月に発行した。

(イ) 学生会員への会誌「ごきそ」の配布

学生会員の父母等への会誌の配布を通じて、工業会活動を周知した。（再掲）

(ウ) 情報提供の場としてのホームページの充実

昨年、リニューアルしたホームページに関し様々な意見をいただき、さらに充実した内容のホームページとなるよう検討を行った。（再掲）

(エ) 各単科会情報の掲載

各単科会からの依頼にもとづき、各単科会の記事をホームページに掲載した。

(オ) 支部活動情報の掲載

各支部における活動情報の提供を呼びかけ、ホームページの各支部の活動に関する情報を積極的に掲載した。

(カ) 会員情報・優待制度の充実

引き続き、会員情報の充実に努めるとともに、優待制度の利用の利便性を向上させた。

イ 支部活動

(ア) 支部長会議の開催

支部長会議を新型コロナウイルス感染症拡大前の対面方式で開催し、22支部中18支部が参加した。また、2024年4月からの小畑学長（当時理事）にも御参加いただき、名工大の現状についての説明をいただくなど、各支部の課題などについて活動交流が行われた。

(イ) 各支部のメールアドレスについて

支部長会議において、本部が各支部に配布しているメールアドレスの利用の利便性について説明し、改めて積極的に御利用いただくよう呼び掛けた。

(ウ) 支部総会への役員派遣について

各支部で新型コロナウイルス感染症拡大前のように開催された支部総会に対し、本部役員を派遣した。

ウ 特別講演会について

昨年に引き続き、定期総会・会員総会時に特別講演会を開催した。

講師：下前哲夫 様 一般社団法人日本鉄道電気技術協会顧問

エ 鶴桜会の支援

名古屋工業大学女性卒業生で組織する鶴桜会（OG会）に対し支援を行った。（再掲）

オ 記念品の贈呈

(ア) 叙位叙勲者に記念品贈呈を行った。

瑞宝小綬章 下村 和生

(イ) 卒業満70, 60, 50, 40周年に該当する正会員に記念品贈呈を行った。

70年25名、60年66名、50年76名、40年161名

カ 各単科会を含む会友との連携

全学同窓会として、各単科会との連携の強化をめざし「各単科会との連携会議」を開催し、各単科会の実情を把握するとともに、各単科会からの要望を受け、今後の検討課題とした。

3 全学同窓会としての取り組み

(1) 「登録会員」の行事参加への支援

各支部開催の行事において、正会員だけでなく登録会員の参加についても行事支援を行うことにより、入会の契機をつくり、会員拡大に向けた取り組みを行った。（再掲）

(2) 工大祭開催期間中における「名工大歴史館」の開催

2022年度に始めた工大祭期間中の「名工大歴史館」については、今回は2回目となり、大学の卒業生連携室と共催する形をとり、多数のチラシを配布するなどにより、初回を大きく上回る300人を超える来館者があった。

(3) 各単科会との連携会議の開催

全学同窓会として、各単科会との連携の強化をめざし「各単科会との連携会議」を開催し、各単科会の実情を把握するとともに、単科会からの要望を受けた。（再掲）

4 名古屋工業会の将来に向けた基盤整備

(1) 財政について

ア 新入生からの終身会費の継続的な収納の確保

主要な財源となっている新入生からの終身会費の継続的实施について、大学との調整を行った。

イ 工業会館跡地の利用

名古屋工業会館跡地に設置した駐車場の運用状況を把握し、必要な調整を行った。

(2) 組織体制の整備

ア 役員体制の整備

理事長1名、副理事長4名、理事7名が入れ替わり、監事を含めた12名体制での新たな執行部が発足した。

イ 役員交代についての方針

副理事長又は理事を退任された方々に相談役又は参与の役職に就任いただくことにより、今後の工業会の方針、活動などに関しての相談体制を整えた。

ウ 事務局体制について

新事務局長を迎え、事務局体制の継承のため、大学との調整を行った。

(3) データベースの整備

新規の会員の情報、異動者の情報等について、大学及び各単科会と連携し、着実にデータ処理を行うとともに、データベースの構築と維持方法について検討を行った。

(4) 危機管理体制について

各種災害のリスクに備えるため、大学が実施する防災訓練などに積極的に参加するとともに、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」に対し、北陸支部にお見舞いのメールをお送りし、工業会として援助の意思を伝えた。さらに、被災地での緊急性があり需要の高い北川教授のインスタントハウスに対し支援を行った。

5 大学との連携活動について

(1) 大学の卒業生連携室の協力を得て、「各単科会との連携会議」及び「名工大歴史館」を開催した。（再掲）

(2) 卒業生に関する工業会加入の新規データ作成やその他データベースの情報更新については、大学の卒業生連携室との日常的な情報交換により実施した。（再掲）

(3) 名古屋工業会本部及び支部の活動等において、大学への支援を呼びかけるためリーフレットの配布等を行った。（再掲）

6 その他

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大による制限が全廃された工大祭開催期間中において、卒業生連携室と共催し「名工大歴史館」を開催し、300名を超える来館者があった。（再掲）

(2) 1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」による被災者への支援活動への寄附のお願いを各支部長あてに依頼したが、各支部において迅速に動いていただき、危機管理体制に貢献すると共に、各支部間相互の情報伝達により支部同志の関係強化にもつながった。

2023年度収支決算書(案)

(2023年4月1日から2024年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	5,860,509	6,015,000	△ 154,491
(1) 財産利子収入	1,658,709	1,800,000	△ 141,291
(2) 会誌広告収入	387,000	400,000	△ 13,000
(3) 駐車場賃貸収入	3,814,800	3,815,000	△ 200
(4) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	74,100,000	73,600,000	500,000
(1) 入会金収入	33,000	50,000	△ 17,000
(2) 年度会費収入	1,607,000	2,420,000	△ 813,000
(3) 終身会費収入	72,320,000	71,000,000	1,320,000
(4) 賛助会費収入	140,000	130,000	10,000
3) 雑収入	44,812	35,000	9,812
(1) 雑収入	44,812	35,000	9,812
4) 積立預金取崩収入	0	0	0
5) 前期繰越収支差額	△ 997,625	0	△ 997,625
(1) 前期繰越収支差額	△ 997,625	0	△ 997,625
収入の部合計	79,007,696	79,650,000	△ 642,304

注1 職域会員の年度の切り替え時期の納入による誤差

注2 学部生・大学院生の入会の微増

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	52,536,601	55,500,000	△ 2,963,399
(1) 大学支援事業	27,836,399	28,950,000	△ 1,113,601
ア 教育研究支援	2,312,745	2,250,000	62,745
イ 学生支援	25,223,654	26,700,000	△ 1,476,346
ウ その他支援	300,000	0	300,000
(2) 工業会の充実のための事業	23,230,284	25,000,000	△ 1,769,716
ア 会員増強活動	6,887,122	7,000,000	△ 112,878
イ 広報活動	6,828,581	6,900,000	△ 71,419
ウ 支部活動	9,010,385	9,000,000	10,385
エ 会員慶弔	429,196	2,000,000	△ 1,570,804
オ 講演会	75,000	100,000	△ 25,000
(3) 収益事業	1,469,918	1,550,000	△ 80,082
ア 駐車場賃貸	1,469,918	1,550,000	△ 80,082
2) 管理費	20,523,252	21,150,000	△ 626,748
(1) 総会経費	2,886,128	3,150,000	△ 263,872
(2) 管理諸経費	17,637,124	18,000,000	△ 362,876
3) 積立預金繰入支出	5,000,000	3,000,000	2,000,000
(1) 指定定期預金及債権(終身会費)	5,000,000	3,000,000	2,000,000
4) 次期繰越収支差額	947,843	0	947,843
(1) 次期繰越収支差額	947,843	0	947,843
支出の部合計	79,007,696	79,650,000	△ 642,304

注1 工業会賞記念品(腕時計)の機種変更及びトップセミナーの動画配信の中止

注2 名古屋工業大学基金「令和6年能登半島地震被災地への簡易住宅設置支援金」

注3 卒満用オリジナルカレンダーの支払計上の時差

注4 終身会員の将来に向けた活動確保のための積立

正味財産増減計算の部

2024年3月31日

(1) 増加の部

(単位：円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	947,843	
	減価償却積立金増加額	230,577	
	退職給与引当預金増加額	400,000	
	終身会費引当預金増加額	5,000,000	
増加額合計		6,578,420	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	△ 997,625	
	構築物償却費	218,218	
	什器備品償却費	12,359	
負債の増加	退職給与引当金増加額	400,000	
	終身会費引当金増加額	5,000,000	
減少額合計		4,632,952	
当期正味財産増減額		1,945,468	
前期繰越正味財産額		241,626,924	
期末正味財産合計額		243,572,392	

貸借対照表

2024年3月31日

1. 資産の部

(単位：円)

勘定科目		金額	
大科目	小科目		
流動資産	現金預金	112,667,467	
流動資産合計(A)			112,667,467
固定資産 特定財産	調査研究助成積立預金	10,565,784	
	減価償却積立預金	4,585,362	
	退職給与引当預金	4,155,191	
	特別修繕引当預金	10,361,624	
	終身会費引当預金	10,000,000	
特定財産合計(B)			39,667,961
その他固定資産	土地	33,524,344	
	構築物	1,875,910	
	什器備品	76,157	
	投資有価証券	80,473,548	
	差入保証金	100,000	
その他の固定資産合計(C)			116,049,959
固定資産合計(D) = (B) + (C)			155,717,920
資産合計(E) = (A) + (D)			268,385,387

2. 負債の部

勘定科目		金額	
大科目	小科目		
流動負債	未払費用	240,740	240,740
固定負債	受入保証金	55,440	
	退職給与引当金	4,155,191	
	特別修繕引当金	10,361,624	
	終身会費引当金	10,000,000	
固定負債合計(G)			24,572,255
負債合計(H)			24,812,995

3. 正味財産の部

当期正味財産増加額		1,945,468
正味財産(I)		243,572,392
負債及び正味財産合計(J) = (H) + (I)		268,385,387

財 産 目 録

2024年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
Ⅰ. 流 動 資 産		
1. 現金	1,073,471	
2. 普通預金（三菱UFJ銀行）	93,895,959	
3. 当座預金（ゆうちょ銀行）	16,698,037	
4. 定期預金（三菱UFJ銀行）	1,000,000	
流動資産合計	112,667,467	112,667,467
Ⅱ. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1) 国 債 （野村證券）	39,667,961	
特定資産合計	39,667,961	39,667,961
2. その他の固定資産		
(1) 土地 狭間町4番3 515.35 m ²	33,524,344	
(2) 構築物	1,875,910	
(3) 什器備品	76,157	
(4) 国 債 （野村證券）	60,332,039	
(5) なごやか市民SDGs未来債（野村證券）	20,000,000	
(6) 金銭信託（みずほ信託銀行）	141,509	
(7) 差入保証金（八重洲倶楽部）	100,000	
その他の固定資産合計	116,049,959	116,049,959
固定資産合計	155,717,920	155,717,920
資 産 合 計	268,385,387	268,385,387
(負債の部)		
Ⅰ. 流 動 負 債		
未払費用	240,740	
流動負債合計	240,740	240,740
Ⅱ. 固 定 負 債		
受入保証金	55,440	
退職給与引当金	4,155,191	
特別修繕引当金	10,361,624	
終身会費引当金	10,000,000	
固定負債合計	24,572,255	24,572,255
負債合計	24,812,995	24,812,995
正味財産		243,572,392

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 横山 裕行 殿

2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2024年4月18日

一般社団法人 名古屋工業会

監事

森 秀 穂  印

監事

川村 信之  印

2024年度（令和6年度）事業計画（案）

はじめに

名古屋工業会としては、各種イベントの対面開催により、活発な議論や交流を図るとともに、Web会議システムの合理性を有効的に活用するなどのサービスにも努めてまいります。

名古屋工業会は、2023年度に理事長をはじめとする役員的大幅な交代を行いました。新役員体制においても2年目となる今年は、名古屋工業大学が小畑新学長のもとスタートしており、改めてその関係性をより良いものに構築する必要があります。そのために名古屋工業会と名古屋工業大学が密接な連携のもと、大学支援、学生支援を行い、信頼関係を築くことにより、工業会の安定的な運営に努めてまいります。

「全学同窓会」として、全卒業生を包含する同窓会をめざし、活動を進めます。2年連続で開催した各単科会との連携会議について、引き続き開催するとともに、各単科会と連携した取組みについて検討します。

広報活動についての見直しを行います。特に会誌「ごきそ」の発行を年間6回から4回にし、そのうち1回を冊子として郵送し、会員の現在の状況を把握し、名古屋工業会の活動をより効果的なものとなるよう改善します。

支部活動充実のため、支部長会議を開催します。支部行事への「登録会員」の参加について、引き続き行事支援金の支出を行い、正会員確保の活動に努めます。

工大祭期間中に今年で3回目となる「名工大歴史館」を開催し、一般の方々へ名古屋工業会及び大学を広報し、特に在学生の父母及び卒業生に対し、名古屋工業会活動への理解を深めてもらう活動を行います。

寄附活動について新たな取り組みに関し検討を開始します。

1 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援（国際的に通用する人材の育成・大学の国際化支援）

国際化におけるグローバル人材を育てることを目的に、海外研修・渡航する学生への支援を行う。

(2) 教育研究支援（大学の教育研究活動に対する支援）

大学が実施する公開講座について、講師を派遣するほか、優秀な論文の作成者について、大学基金を通じ支援を行う。また、定年退職教職員へその功績をたたえ、感謝状と記念品の授与を行う。

(3) 学生支援（学生の人材育成に対する支援）

永年にわたり実施してきた優秀な学生への名古屋工業会賞の授与を行う。

(4) 経済的に支援を必要とする学生への給付型奨学金の授与を行う。

(5) 学生の海外研修・留学への支援（国際化推進事業支援と同一事業）を実施する。（再掲）

(6) 課外活動の活性化及び人間形成並びに名古屋工業会の認知度を上げ、未加入者に対し工業会への加入促進を図るため、挑戦的課外活動団体支援を行う。

(7) 各単科会が実施する学生(各単科会の関係する学科・専攻の学生)の就職・キャリア支援のため開催する講演会、セミナー、懇話会等を対象に支援を行う。

(8) そのほか、学生及び卒業生への支援を目的とする団体（留学生後援会、鶴桜会（OG会））に対し支援を行う。

(9) 先輩の人生、職業を知る重要な機会として、また、大学で開講されている必修科目授業「産業論」とも連携し、「OB・OGトップセミナー」を実施する。

(10) 工大祭期間中に今年で3回目となる「名工大歴史館」を開催し、一般の方への名古屋工業会及び大学を広く広報し、特に在学生の父母及び卒業生に対し、名古屋工業会活動への理解を深めてもらうと共に寄附活動を行う。

(11) 大学基金への寄附

大学の強い意向を踏まえ、大学が進める大学基金の募金活動に積極的に協力するとともに、大学への寄附金の充実に努める。

(12) その他

大学支援にあたっては、支援の効果が上がるよう、弾力的に工夫して行う。

同期会、クラブOB会、各単科会イベント、各支部における行事、名工大歴史館等種々の機会を通じた寄附土壌の醸成を行う。

2 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

卒業式、入学式等大学のイベントにおける入会活動など、在学生、卒業生に様々な機会をとらえて勧誘を行う。

昨年に引き続き、工大祭期間中に「名工大歴史館」を開催する。(再掲)

各単科会イベント、各支部における行事等において、正会員への入会勧誘を行うとともに、正会員への入会の契機をつくるため、「登録会員」の各支部行事への参加について、行事支援金の支出を行う。

また、2025年度入学者からの諸納金徴収システム変更に伴い、より多くの新入生が入会するような仕組みづくりを大学側に働きかけていく。

(2) 活性化活動

ア 会員交流及び広報活動

(ア) 会員交流の場としての会誌「ごきそ」について、発行回数を年間6回から4回に変更し、ホームページを有効活用し、リアルタイムで最新情報を掲載することにより、情報提供のサービス向上を図る。

(イ) 会誌「ごきそ」の4回発行のうち1回は冊子を郵送し、同封した会員の最新情報を収集するはがきを返送してもらうことにより、会員の現状把握に努め、会員の増強を図り、支部活動の活性化などにつなげていく。

(ウ) リニューアルしたホームページを活用し、名古屋工業会本部及び各支部の最新の話題・情報の提供、各単科会の話題などの掲載など、柔軟なWebページづくりに努める。(再掲)

(エ) 会誌「ごきそ」の発行回数を6回から4回に変更し、そのうち1回を郵送する。特に在学生の父母等への配布については、工業会活動の周知と入会勧誘に貢献する。

(オ) 挑戦的課外活動団体への支援を通じ、工業会の認知度を上げるとともに、未加入の学生に入会を案内する。

(カ) 入学式など各種行事における学生の保護者への説明を行い、未加入の学生に対し入会を促す。(再掲)

(キ) 会誌「ごきそ」を郵送することにより、優待制度利用に合理性のある会員証などの見直しに着手する。

イ 支部活動等

(ア) 支部活動について、各支部の多様性に配慮しながら、引き続き財政等を通じた支援を行う。

(イ) 「登録会員」の支部行事への参加について行事支援金の支出を行う。(再掲)

(ウ) 支部長会議を開催し、本部と支部、支部と支部の対話の機会を設けると共に、支部総会には可能な範囲で本部役員を派遣し、本部及び大学等の情報の提供を行う。

ウ 各単科会を含む会友との連携

各単科会との連携会議を開催し、各単科会との連携を強化すると共に、共通の課題について連携し対応を図る。

3 全学同窓会の取り組み

- (1) 「各種行事への「登録会員」の参加を促すとともに、「正会員」への入会の契機をつくるため、「登録会員」の支部行事への参加について行事支援金の支出を行う。（再掲）
- (2) 各単科会との連携を強化するため、3年目となる各単科会との連携会議を継続開催するとともに、各単科会の支援の要望等について聴く機会を設ける。（再掲）
- (3) 卒業後の住所変更等の異動情報を入手するため、会誌「ごきそ」の発送時に同封する返信ハガキの利用した会員の現況把握に着手する。（再掲）

4 名古屋工業会の将来に向けた基盤整備

- (1) 財政について
 - ア 「指定定期預金及び債権（終身会員）」（終身会員の将来に向けた活動を確保するための積立）について、積み立てに努める。
 - イ 新たな事業活動、特に大学の周年事業に対応する新たな寄附の制度についての検討を開始すると共に、中長期的な会費収入の在り方について検討を開始する。
 - ウ 名古屋工業会館跡地に設置した駐車場の運用について、必要な調整を行う。
 - エ 2025年度入学者からの諸納金徴収システム変更に伴い、より多くの新入生が入会するような仕組みづくりを大学側に働きかけていく。（再掲）
 - オ 一般社団法人として、適切な法人会計について継続的に検討する。
- (2) 組織体制の整備
 - ア 多くの役員が2年目となるため、業務活動を本格的かつ円滑に行うよう努める。
 - イ 事務局長が2年目となることから、各支部の活動にも積極的に参加するほか、その他職員も法人としての組織・財政の維持と情報化・高度化に対応できるよう、各自スキルアップに努める。
- (3) データベースの整備
 - 住所等把握のため、各単科会及び大学の卒業生連携室と連携して卒業生への働きかけを行うと共に、会誌「ごきそ」を郵送し、同封のハガキを返信してもらうことにより、会員の現況を把握し、データベースを最新の状態に保つ。（再掲）
- (4) その他
 - 1月に起こった令和6年能登半島地震、長期にわたる新型コロナウイルス感染症の拡大などその他各種災害対応に備え、危機管理体制について検討を行う。

5 大学との連携活動の充実

- 大学支援事業に当たっては、卒業生連携室等と連携し実施する。
また、大学との連携のもとデータベースの整備に努める。
大学の意向を踏まえ、大学が進める基金活動に積極的に協力するとともに、大学への寄附金の充実に努める。
理事長の名工大ステークホルダー会議委員への就任を機会に、大学との連携を一層深める。
大学執行部とのミーティングの機会を設け、意見交換を行い大学との強固な連携を図る。

6 その他

- 小畑新学長のもと大学は新しい執行部で動き出し、また、東海地方の国立全8大学による「東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）」が発足するなど、大学を取り巻く状況も変化しており、今後一層、大学との連携を密にし、引き続き名古屋工業会と大学との良好な信頼関係の維持に努める。

2024年度収支予算書(案)

(2024年4月1日から2025年3月31日)

1. 収入の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	2024年度予算(A)	2023年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	5,815	5,860	△ 45
(1) 財産利子収入	1,650	1,658	△ 8
(2) 会誌広告収入	350	387	△ 37
(3) 駐車場賃貸収入	3,815	3,815	0
(4) 寄附金収入	0	0	0
2) 入会金, 会費収入	74,170	74,100	70
(1) 入会金収入	30	33	△ 3
(2) 年度会費収入	2,000	1,607	393
(3) 終身会費収入	72,000	72,320	△ 320
(4) 賛助会費収入	140	140	0
3) 雑収入	40	45	△ 5
(1) 雑収入	40	45	△ 5
4) 積立預金取崩収入	0	0	0
5) 前期繰越収支差額	948	△ 997	1,945
(1) 前期繰越収支差額	948	△ 997	1,945
収入の部合計	80,973	79,008	1,965

※ 2024年度借入限度額及び債務負担額についての該当事項はありません。

2. 支出の部

(単位:千円)

勘 定 科 目	2024年度予算(A)	2023年度決算(B)	増減(A-B)
1) 事業費	54,800	52,537	2,263
(1) 大学支援事業	28,050	27,837	213
ア 教育研究支援	2,350	2,313	37
イ 学生支援	25,700	25,224	476
ウ その他支援	0	300	△ 300
(2) 工業会の充実のための事業	25,250	23,230	2,020
ア 会員増強活動	6,800	6,887	△ 87
イ 広報活動	8,000	6,829	1,171
ウ 支部活動	9,000	9,010	△ 10
エ 会員慶弔	1,400	429	971
オ 講演会	50	75	△ 25
(3) 収益事業	1,500	1,470	30
ア 駐車場賃貸	1,500	1,470	30
2) 管理費	21,100	20,523	577
(1) 総会経費	3,100	2,886	214
(2) 管理諸経費	18,000	17,637	363
3) 積立預金繰入支出	5,000	5,000	0
(1) 指定定期預金及債権(終身会費)	5,000	5,000	0
4) 次期繰越収支差額	73	948	△ 875
(1) 次期繰越収支差額	73	948	△ 875
支出の部合計	80,973	79,008	1,965

◎ 定期総会の決議事項は、すべて原案どおり了承されました。 理事長 横山裕行



※発刊の都合により、定期総会の報告と前後しますが、以下学位記授与式、入学式について報告します。

2023年度 学位記授与式

名古屋工業大学2023年度学位記授与式が3月26日(土)、名古屋市公会堂大ホールにおいて、午前に学部、午後に大学院に分かれて、卒業生及び保護者等が出席して厳かに開催された。

式典は、木下学長をはじめ大学役員、横山名古屋工業会理事長等来賓が列席し、名工大

管弦楽団によるバッハ作曲ブランデンブルグ協奏曲第5番第一楽章の奏楽で開式、学長から学位記が授与された。続いて学長式辞、各代表らによる答辞が述べられた。

最後に合唱団によって学歌が合唱され、学位記授与式を終了した。



2023年度 学位記授与式 式辞 (学部)

国立大学法人名古屋工業大学長
木下 隆利 (W50)

学位取得、誠におめでとうございます。本学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、これまで皆さんを励まし、支えてこられた保護者・関係者の皆様にも心からお慶び申し上げます。

皆さんは100年に一度のパンデミックに起因する変則的な教育・研究環境においても卒業認定に必要な要件を全て満たし、無事、今日の日を迎えられました。様々な困難にも打ち勝ちながら学び抜かれたことに最大の敬意を表します。

本日は皆さんに贈る言葉として、哲学者の鷲田清一（わしだ・きよかず）先生のショートメッセージを2つお届けしたいと思います。

まず、「失敗」についてです。「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまくいかなかった方法を見つただけだ」というエジソンの言葉を引用しています。その上で、偉大な発明の前には実験や工夫のゴミの山があることをかつての現場技術者は知っていた。ところが最近、画期的な革新・発明が起こりにくいのは、失敗しないから今の生活があるのだ、と自らに言い聞かす小心ものばかりの社会、やり直しを許さない社会になっているからではないかと指摘しています。失敗が新たな気づきや価値創造に繋がるんだから、と背中を押してくれているのだと思います。

二つ目は「優等生は嫌われる」という話です。関西の言い伝えで、アホになれん奴がホンマのアホや、というのがあります。もう少し正確に言えば、優等生然とした振る舞いは小ばかにされてしまいます。成績が良いことはそれほど評価されずに、自分をあえて笑われ役やアホになりきることで、他の一人ひとりの言い分を



聴き、でも最後に「しゃあないな」と一つにまとめ上げることのできる人が本当に賢いとされる。おもしろいやつ、頼りになるやつのほうが、うんと評価が高いのです。

これだけ賢い人間が揃っているのに、2000年以降、国際的地位が低下してしまった今の日本に対し、「役に立たない優等生より役に立つバカになれ！」が、鷲田先生からの日本復活のエールだと感じました。

失敗を恐れることなく、いいカッコもせず、人のために自分の時間を使う。

このような役に立つ技術者・研究者を目指し、更に、次の世代へと繋いで下さると幸いです。

本日は誠におめでとうございます。





2023年度 名古屋工業会賞贈呈

(学生支援事業)

理事長 挨拶

一般社団法人名古屋工業会

理事長 横山 裕行 (K49)

名古屋工業会理事長を拝命しております横山でございます。式典にあたりまして全学同窓会を代表し、心よりお祝いを申し上げたいと思います。学生の皆さん、本当に卒業おめでとうございます。また、ご父母の皆さま、支えられてこられたご子息、ご息女が、今日無事卒業されるこの日を、感慨深く迎えられたのではないかと思います。本当におめでとうございます。

学生諸君は、ぜひこの感謝の気持ちを今日ご父母、あるいは家族の方に、できれば直接、メールでも良いので伝えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

また、晴れて名古屋工業会賞を受賞された卒業生には、重ねてお祝いを申し上げます。受賞された皆さんは、大学からの推挙に基づき、学業成績が優れているだけではなく、他の模範となるような人間性を兼ね備えたと認められた方です。これからも各々進まれる分野で引き続き努力し、更に成長されることをお祈りしております。

さて、私が卒業してちょうど50年になります。昭和49年に卒業しました。昭和49年は、直前にオイルショックがありまして、高度成長を享受してきた日本経済に急ブレーキがかかった年でした。そのため就職した同級生の中でも一部は、就職先から自宅待機を命ぜられ、大変不安なままで卒業式を迎えたことを思い出しております。

その後、日本経済は、苦難を乗り越え順調に成長して来ましたが、足元では、ご存知のように、GDPでドイツに抜かれ、世間からは日本の生産性や産業構造に疑問を投げかけるような報道があります。しかし、この50年を振り返ってみると、エネルギー危機や急激な為替変動、さらには諸外国の輸入規制、あるいは大きな災害、



パンデミックなど、様々な障害をクリアして、成長してきたのも事実であります。

健全な危機感を持ち続けることと、やはり潜在的な高い技術力や不屈の精神を発揮することで必ずや復活できるものと私は確信しております。もちろんAIなど我々の高度成長時代とは異なり、新しい技術がどんどん生み出され、その進化のスピードも相当早くなっています。しかし、みなさんの若い感性と能力でそのスピードに打ち勝ってください。当然、技術のポテンシャルは高くなりますので、いつまでもいつまでも学び続ける姿勢を貫き、技術を磨いてください。大いに期待をしております。

これから皆さんは上級課程へ進学、あるいは社会人としての一步を踏み出されますが、先輩として一つだけアドバイスをさせていただきます。皆さんは、優秀なエンジニアの卵であることは言うまでもありませんが、本当の意味で優秀な人になってほしいと思っています。優秀の「優」の字は、「ニンベンに憂う」と書きます。すなわち「憂うことに秀でた人」のことを「優秀」と言われています。人の気持ちを考えることができ、思いやり、心配りに秀でた人のことを「優秀」というふうに思います。単に仕事や勉強が

できるということにとどまらず、人間的にも優れた人になることに心がけてください。これは、本校で木下学長が推進されてきた「心で工学」にも通じるものと私は思います。ぜひこの先、体に気をつけられ、上級課程あるいは社会で活躍されることをお祈りします。

最後になりますが、名古屋工業会は、全学同窓会として輝く母校と同窓生同士の絆を強めることを願い、大学支援を第一の柱として、学生のみなさんの教育研究支援、海外留学の支援、課外活動の支援などを行っております。また、もう一つの柱である会員相互の親睦では、全国22支部において実社会で活躍されている方やOB・OGが、相互啓発と親睦を深める活動をしています。就職される方は、各々の会社で名工大の先輩から声がかかるとと思いますので、ぜひ

頼ってください。声がかからなかったら探してください。私の経験では大学数は沢山ありますが、面倒見の良さ、付き合いのしやすさでは、名工大のOB・OGは極めてフレンドリーな関係が築ける、そういう母校だと思っています。また、時々、名古屋工業会ホームページを見てください。たくさんの様々な経験をした人とネットワークを持つことは、きっと役に立つと思います。積極的に行事に参加されることをお勧めしたいと思います。

最後になりましたが、コロナ禍で大変な中、皆様の教育研究のご指導をいただいた教職員の皆様に心からの謝意を表し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

名古屋工業会賞の贈呈が令和6年3月26日(火)に名古屋工業大学学位記授与式で行われ、横山理事長から次の19名に表彰状と記念品(刻銘入り腕時計)が贈呈された。

名古屋工業会賞は、第一部、第二部の各学科卒業生のうち、在学中の学業成績がきわめて優秀であり、豊かな感性を持ち他の学生の模範となる学生に対して、学長の推挙に基づき贈呈するものです。



贈呈者

(第一部)

生命・応用化学科	可児 瑞筐	落合 世舟	松尾 康平	伊藤 順平
物理工学科	加藤 誉久	江田 登和		
電気・機械工学科	井上 雄斗	後藤 祐里	中島 芽意	杉原 智之
情報科学科	松原 悠真	山本 雅貴	三宅 恭平	
社会工学科	二村 健心	南草 伊吹	加藤 拓実	
創造工学教育課程	杉浦 桃子	鈴木 香保		

(第二部)

物質工学科	手代木 怜美
-------	--------



2024年度 入学式

名古屋工業大学2024年度入学式が4月6日(土)、名古屋市公会堂大ホールにおいて、午前は大学院、午後は学部に分かれて、2部制で執り行われた。

式典は、小畑学長をはじめ、大学役員、横山名古屋工業会理事長等来賓が列席し、管弦楽団の奏楽で開式した。

小畑学長から工学部991名、大学院工学研究科博士前期課程731名、博士後期課程55名、総数1,777名の入学が許可され、各代表が勉学・研究に専念する旨を宣誓した。続いて、小畑

学長から入学者歓迎の式辞が述べられた。

最後に、新入生を歓迎して合唱団が学歌を合唱し、入学式を終了した。

保護者説明会が4階ホールにて開催され、小畑学長の挨拶の後、日原副学長から名工大の特徴、入学から就職までの大学生活をサポートする体制について説明が行われた。また、仁科名古屋工業会常務理事から全学同窓会である名古屋工業会について説明があり、参加した900名の保護者に本会への理解と協力を求めた。



2024年度 入学式式辞 (学部)

国立大学法人名古屋工業大学長

小畑 誠

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

名古屋工業大学へようこそ。今日この日に、みなさんを名古屋工業大学にお迎えすることができたことは、教職員、在学生、卒業生そして本学に関わるすべての人々にとって大きな喜びであります。

また、ご列席のご家族、ご親族のみなさまにも心からのお喜びを申し上げます。

本学の創立は1905年に中部地方で初めての官立学校として設立された前身の「名古屋高等工業学校」にまでさかのぼります。まもなく創立120周年を迎えますが、これまでにのべ約8万人の有意の人材を世に送り出し、この中京地域はいうに及ばず我が国の産業および社会の発展に貢献をしましました。今も本学の卒業生は国内外で広く活躍しています。そして現在ではわが国でも有数の規模を誇る国立の工科系大学となっています。

わたしたちの名古屋工業大学では「心で工学」を合言葉に掲げています。

みなさんは工学を通じて社会に貢献することを考えて本学に入学されたものと思います。工学はものづくりと深いかわりをもっています。しかし、工学の作るものあるいは関わるものの向こうには必ず人がいます。

わたしたちが「心で工学」をいうのはまさにこのためです。工学は究極的には人を相手にする学問であり人を理解してこそできる学問です。したがって工学を考えるときには、論理、計算をつかさどる左側の脳だけでは対応できるものではありません。感性や情感をつかさどる右側の脳も使うことが大切です。そこで、本学では皆さんが左側の脳に劣らず右側の脳も鍛えることができるように、環境をすこしずつ整え続けています。何年か前から進めております、キャンパス内に様々なアート作品を設置するアートフルキャンパス構想もこの考えにそったものです。古来いろいろな人が言葉を変えて繰り返し「芸術作品は自分の魂を映す鏡である」という趣旨のことを述べています。

みなさんにはキャンパスの中のアート作品を見てあるいは感じて、皆さんが自分自身を見直す時間をもっていただけたらと思います。そしてそのような機会をもつことは小さいことかも知れませんがとても貴重で大切なことです。

これからわかい皆さんは希望に満ちてやりたいことに熱中されることと思います。あらたな知識や技術を身に付けるほかにもいろいろな課外活動をしてみたい。外国にいて学ぶ機会を得てみたいなど。



わたくしどもの大学はそれを応援するさまざまなしくみや仕掛けを用意していますのでそれらを最大限に利用していただきたいと思います。

ここでもうひとつお伝えしたいと思います。

次のような言葉があります。

「自ら自己を高めるべきである、自己を沈めてはならぬ。

実に自己こそ自己の友であり、自己こそ自己の敵である。」*

これは2千年ほど前の言葉です。

どのような環境にあったとしても自分を高めるのはつまるところ、他でもない自分自身であるということです。そして自分自身を信じて行動しなければ何も得られないし、何も起こらないということです。

自分が育ち慣れ親しんだ環境にいることは心地よいことかも知れませんが、また、内なる自己はあなたにそうさやくかも知れませんが、ただあえてそこから踏み出して積極的により広い世界に出ていく気概を持ってほしいと思います。

必ずしも楽しいことばかりではないかもしれませんが、でもそれこそが自己を成長させることなのです。多様性というのは何も集団の特性にかぎるものではありません。自己の中の内なる多様性もまた存在します。自分とは異なるものに接し、感じ、その内なる多様性を積極的にはぐくむことは、どういうレベルであれ新しいものを生み出すことに必要不可欠なことです。

それは若い皆さんだからこそ、ぜひやってもらいたいことであるし、人というものを理解し、「心で工学」につながることなのです。

みなさんがこの名古屋工業大学で意義のある学生生活を過ごされることを祈念いたしまして、式辞といたします。

本日はまことにありがとうございます。

*バガヴァッド・ギーター (第6章5節)
上村勝彦 訳 岩波文庫

〈新入学の皆さんへのメッセージ〉（2024年度）

名古屋工業大学ならびに大学院に入学された皆さん、誠におめでとうございます。入学にあたってはコロナ禍で様々な制約があった中ご苦労も多かったと思いますが、晴れの日を迎えられたこと、皆さんの努力に敬意を表したいと思います。また、日々のサポートをされてこられたご家族、関係者の皆様方もほっとされておられることと思います。是非、学生諸君からも感謝の言葉を伝えていただければ幸いです。

昨年5月に理事長に就任し、50余年前の自分の入学式以来、初めて式典に参加させていただきました。当日は、好天に恵まれ桜も満開、週末だったこともあり、鶴舞公園の人出も多く、数多くのご家族の方々にもご参加いただきました。学生諸君の若く希望に満ちた姿を拝見していると大変心強く感じた次第です。

さて、名古屋工業大学の全学同窓会である名古屋工業会は当校の前身である名古屋高等工業学校が創立されて10年後の大正10年（1915年）に同窓会組織として設立され、現在に至るまで100年以上に亘って活動しています。工業会の活動は、「輝く母校と同窓の絆を願って」をスローガンに「大学支援」と「会員相互の親睦」を事業の柱としています。

大学支援では学生諸君が海外へ短期留学する際の財政的な支援や工大祭や部活動のサポート、また皆さんが社会に出るために役立ててもらおうべく、OBやOGを招いたセミナーの開催など、学生生活を実りあるものとしたいとの思いで様々な活動を展開しています。

また、工業会は全国に22ヶ所の支部を持ち、支部単位でも皆さんの先輩方が様々な活動をされています。今はあまり実感がないかもしれませんが、色々な形で先輩、仲間と交流を持つことはこれからの人生において大変有益だと思います。入学に当たり、多くの皆さんが工業会に入会いただき感謝していますが、是非これから我々の活動の仲間に加わっていただくことを期待しています。

皆さんは人生を一日に当てはめると、やっと



夜明け前を迎えた時期ですね。清々しい気分です。これから一日頑張るぞというタイミングです。これから大切な4年間、または大学院の方は2年間、3年間当学で勉学に励まれるわけですが、時間は十分あるので、あせらず、じっくりと取り組んでももらいたいと思っています。社会人になる前の比較的時間に余裕がある貴重な期間なので、様々なことを貪欲に経験してもらいたいですね。世の中はものすごいスピードで変化しており、多くの技術革新が求められていますが、何をしていたら正解なのかは誰もわかりません。ただ、そうは言っても物理や化学の原理・原則を超越することは起きない訳で、まずは基礎をしっかり押さえることと論理的に物事を考える、進めるクセを付けて欲しいと思います。

最後になりますが、私は今も大学時代の仲間と交流を続けています。色んなサークルやクラブ活動に積極的に参画し、将来にわたってのつながりを作ってください。社会に出ると一人で出来ることには限界があります。多くの人と係わることでより大きな成果が出せます。コミュニケーションする力をつけてください。きっと、これからの人生をより豊かなものにしてくれるでしょう。工業会の先輩達との交流も大歓迎です。健康第一で実りのある学生生活を過ごされることをお祈りします。

2024年4月

名古屋工業会 理事長 横山 裕行

学生コーナー

エンジョイベースボール ～負けを恐れない～

名工大硬式野球部主将 社会工学科3年生 神谷 勇有真

2024年度春季2部Aリーグで、5勝5敗。順位は6位中4位と私立相手に自信を持っていい結果となった。ただ、今思うとぎりぎりであったと感じる。勝った試合は全て2点差以内であり、そのうち2試合がサヨナラ勝ちである。それでも5勝もすることができたのは、全員で掲げた“エンジョイベースボール”をチーム一丸で最後までやり切ることができた結果であると思う。

先輩達がやっとの思いで勝ち取った2部昇格。実際僕たちもその瞬間を共に喜んだ分、今大会での2部残留をしなければいけないという大きなプレッシャーを感じていた。

最初の対戦相手は、優勝候補の名古屋学院大学（以下 名院大）。初戦から主力である4番捕手の村田と2番中堅手の村瀬が胃腸風邪と怪我で欠番。2戦目も勢いに乗れず結果は2試合連続でコールド負け。不安だらけの開幕となった。

翌週の名古屋商科大学（以下 名商大）との第2節、柱である村田が完全復活。打線もつながり、見事今大会初勝利を収めた。とりあえず、1勝できてホッとした。

続く星城大学戦（以下 星城大）、攻守ともに

差が出た試合であり、2試合とも敗れた。

この時点で最下位の1勝で並んだのは名工大と名古屋産業大学（以下 名産大）。この行方は最終節での直接対決になるだろうと誰もが思っていた。

最終節に向けて有利に進めるために臨んだ第4節。相手は当時リーグ単独首位を走っていた名古屋経済大学（以下 名経大）。

初戦の1回表、名工大の攻撃。防御率当時リーグNO.1の投手からいきなり4点を奪った。この猛打がこれからの試合にも勢いをつけたと思う。岡田、加藤、林の4年生投手も躍動し、そのまま逃げ切って番狂わせを起こした。

これを機にチーム全体が活気付いた。

翌日の第2戦、1点ビハインドで迎えた9回裏2死2塁、打席は主将神谷。今大会は不調でチームに貢献できたプレーはなかった。この打席までは。追い込まれてからのスライダーを呼び込んで力強く振った打球はレフトの前に鋭く転がった。2塁ランナーは見事ホームに帰還し、同点タイムリーとなった。なんとか主将の面目を保つことができた。最後はスーパー1年生の早川がサヨナラタイムリーを放ち、名経大に連勝を収めた。完全にチームが1つになった試合となった。



バッテリー



最終戦で本塁打を放つ主将神谷

最後の対戦相手は名産大。1勝でもすれば2部残留が確定する状況であった。1試合目は9回で決着がつかず、延長からはタイブレーク（各回無死1・2塁から攻撃が始まるもの）を行った。ただ3イニングやっても得点差がつかずで結局13回まで試合はもつれ込んだ。最後は粘り勝って、2部残留を勝ち取った。

この春季リーグ戦の前にタイブレークを想定した練習をたくさんしていた。それが実践できた試合であった。だから、1点も与えられない場面も切り抜けることができた。場面を想定した日々の練習の大切さを見にしみて感じた。

次の試合もサヨナラ勝ちを収め、終わってみれば5勝していた。

ここまで勝てたのは、個々の活躍だけでなく、親御さんたちの応援があつての結果だと思う。今度の秋季リーグは攻守ともに引っ張ってくれ

ていた先輩達は大学院試験直後で当分練習できていないため、完全な状態では大会に臨めないであろう。その分、僕らの代（3年）がその期間で底上げを図るとともに、先輩達がいなくても2部残留が安心できるくらいチーム全体で成長していきたい。

<春季リーグ戦 試合結果>

4/6 対名院大① ●2-14（7回コールド）
4/7 〃 ② ●1-8（8回コールド）
4/13 対名商大① ●0-1
4/14 〃 ② ○6-4
4/20 対星城大① ●1-8（7回コールド）
4/21 〃 ② ●0-9
5/4 対名経大① ○7-6
5/5 〃 ② ○3x-2
5/11 対名産大① ○9-7（延長13回）
5/12 〃 ② ○9x-8



チーム揃っての集合写真

（写真提供：名工大硬式野球部）

（関連記事）

○会誌「ごきそ」2023年9-10月号（P.7）「名工大硬式野球部奮闘記」

○計測会2024年4月寄稿「名工大野球部キャプテンの覚悟」

リンク先：<http://www.keisokukai.org/img/file190.pdf>

ホットライン

表彰者紹介

2023年度叙位・叙勲受章者は以下のとおりです。

5月25日の名古屋工業会の総会で、工業会からの表彰を行いました。

「旭日中綬章」 (道路事業功労)

伊藤 周雄



【学 歴】

1962年 3月 名古屋工業大学繊維工学科卒業

【職 歴】

1962年 4月 東洋紡績(株) 入社
1994年 6月 東洋紡績(株) 取締役
2003年 6月 東洋紡績(株) 専務 兼
東洋紡不動産(株) 社長
2005年 6月 東洋紡績(株) 退任
※2007年 6月 東洋紡不動産(株) 退任
2007年 6月 本州四国連絡高速道路(株) 社長
2012年 6月 本州四国連絡高速道路(株) 退任

コメント：今回の受章（叙勲）は、公的組織に近い「本州四国連絡高速道路(株)」での5年間の勤務が評価されたと考えていますが、組織全体（全従業員）の努力と、チームワークに起因すると思います。全従業員への祝意として拝受しました。今後とも、高速道路の安全管理に万全を期する事を祈念致します。



「旭日単光章」 (地方自治功労)

玉田 欽也



【学 歴】

1957年 3月 名古屋工業大学紡織学科卒業

【職 歴】

1957年 3月 大日本紡績(株)（現ユニチカ(株)）入社
1976年 7月 アルジェリア・ティアレ羊毛工場
技術指導 副団長
1980年 9月 モンゴル・ウランバートル
カシミヤ加工プラント チーフエンジニア
1981年11月 ユニチカ(株) 大阪本社
1983年 1月 一宮市全国シロセツ加工業
協同組合 就職
1999年 9月 稲沢市議会議員 当選

コメント：市議会議員は3期12年でしたので、叙勲には縁がなかったと思っておりました。昭和48年6月に制定の「高齢者叙勲」（満88歳になった翌月1日授与の制度）のおかげで、令和5年4月1日付で叙勲を授与されました。中日新聞朝刊（県内版）に掲載されており、感激しました。伝達式は6月9日於愛知県庁。これもひとえに、皆様の長年にわたる心温かいご指導、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

「瑞宝中綬章」

(高分子分離膜、高分子物理化学
及び高分子材料学の発展に貢献)

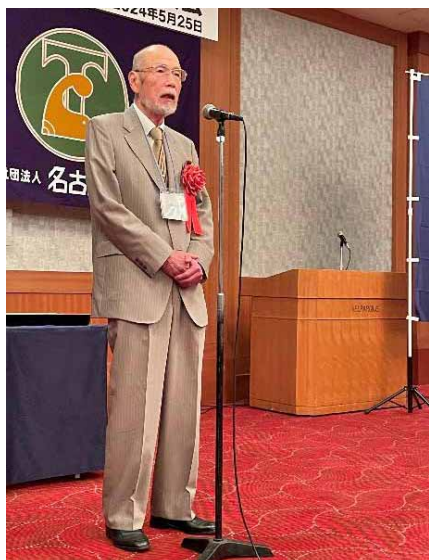
辻田 義治



【職歴】

- 1971年 4月 東京工業大学高分子工学科 助手
- 1975年 4月 名古屋工業大学繊維高分子工学科
助教授
- 1979年 9月 米国マサチューセッツ州立大学
高分子科学科在外研究員
- 1989年12月 名古屋工業大学材料工学科 教授
- 1997年 8月 名古屋工業大学計測分析センター長
- 2006年 4月 名古屋工業大学大学院プロジェクト教授

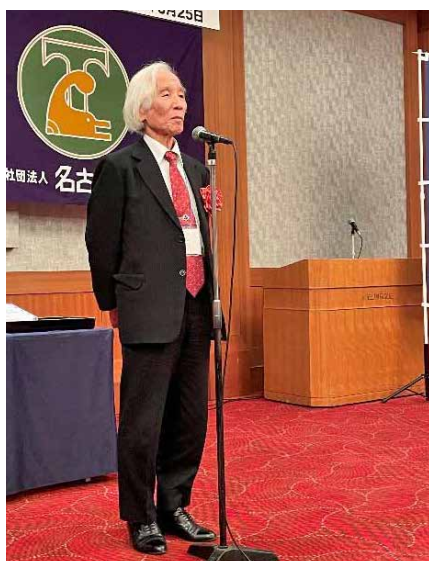
コメント:1975年4月に御器所が丘に赴任して以来、凡そ半世紀にわたって良い教育・研究環境のもと優秀な学生さん、教職員の方々、民間企業の研究者の方々の温かいご支援により高分子分離膜、高分子物理化学及び高分子材料学の発展に貢献出来ましたこと大変嬉しく思っています。これも偏に高い目標を掲げ、日々努力・精進した結果であると確信しています。“継続は力なり”をつくづく実感しているところです。最後に本紙面をお借りして皆様方に御礼申し上げます。大変有難うございました。



伊藤周雄 様



玉田欽也 様



辻田義治 様



表彰者集合写真

ホットライン

名古屋工業会基金 学生Q1ジャーナル賞表彰式

名古屋工業会では、名古屋工業会基金の事業として、Q1ジャーナル(上位25%に位置する高い論文誌)に投稿した大学院生を表彰する学生論文賞を2022年度から創設しました。

2024年3月1日(金)名古屋工業大学4号館会議室2に於いて、4名の大学院生を表彰しました。



(受賞者)

- ・博士前期課程工学専攻電気・機械工学系プログラム 2年 瀧本 海里
- ・博士後期課程工学専攻(生命・応用化学プログラム) 2年 小倉 和樹
- ・博士後期課程工学専攻(生命・応用化学プログラム) 2年 藤田 和樹
- ・博士後期課程生命・応用化学専攻 3年 大塚 喬仁

永年勤続退職者に感謝状授与しました

名古屋工業会は、3月27日(水)、永年にわたり母校名古屋工業大学に奉職され、貢献され退職される教職員3名に感謝状と記念品を授与しました。

授与者(敬称略)

木下隆利、田川正人、水野幸男



名古屋工業会本部にて授与(当日は2人が出席されました)

2024(令和6)年度 尾張支部総会報告

と き：令和6年4月13日(土)

ところ：名古屋文理大学文化フォーラム
(稲沢市民会館) 小ホール

本年度は尾張支部総会は平常開催ができました。懇談会もコロナ以前の形態に戻りました。計画を立案し参加者を募ると約10名であったことから再度役員会を開きみんなで知り合いに声掛けをしました。その際、会員のみでは集まらないので非会員のかたにも参加をしてもらい最終的には約30名の参加になりました。高齢者の方については最寄り駅まで迎えました。名工大管弦楽団の演奏では一般の方の参加がありました。名工大の皆さんは懇親会にも参加して下さいました。



《第1部：支部総会》

名工会尾張支部長伊藤美保の挨拶のあと、ご来賓の名古屋工業大学学長小畑誠様、名古屋工業会常務理事仁科健様のご挨拶を頂きました。その後、1号議案から3号議案まで審議を行い予算案も審議し承認されました。今年は、支部長の交代があり、役員の変更も含め無事に承認されました。

《第2部：特別講演》

名古屋工業大学名誉教授若山滋先生に「夏目漱石と鈴木楨次－近代日本のルサンチマン－」と題



して特別講演をお願いしました。ルサンチマンという聞きなれない言葉と文学者、建築家についての講演でした。同じ時代に生きた文学者と建築家の作品を、その時代の背景を深読みしながら講演はすすみました。文明と文化の戦いと述べられて夏目漱石の作品にある建築物の描写を説明して下さいました。日本が中国に侵攻したり太平洋戦争で南方に領土を拡大したのは人間のルサンチマン(怨念)である。また、積み上げると組み立てるについてのお話は大変興味深いものでした。時間の経つのを忘れてしまうほど素晴らしい講演でした。

《第3部：ミニコンサート》

ティータイム後に、名古屋工業大学管弦楽団の皆さんによるミニコンサートがありました。金管五重奏、弦楽四重奏、木管五重奏の3部門に分かれ、それぞれ3曲ずつ計9曲の演奏でした。よく知られている曲ばかりでリラックスして聞くことができとても楽しいひと時でした。

《第4部：写真撮影》

総勢43名全員が舞台前に集合し、記念写真を撮影しました。



《第5部：懇談会》

名古屋工業大学の皆さんも参加して下さい和やかな会になりました。4年ぶりの平常開催で久しぶりに本来の歓談ができました。また、学歌を名工大の皆さんの演奏付きで歌うことができました。演奏して下さいた皆さんに感謝いたします。予定通り午後6時に散会しました。

尚、来年度の尾張支部総会は、令和7年4月12日(土) 13時30分より名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市民会館)小ホールで開催します。その総会の内容については、今後の尾張支部役員会にて検討して参ります。

記：尾張副支部長 山口 初一(E56)

令和6年度 岐阜支部総会及び講演会の報告

(一社)名古屋工業会 岐阜支部では、令和6年5月11日(土)に、岐阜駅前のホテルリソル岐阜において、会員38名が参加して、令和6年度の総会と講演会を開催しました。

令和6年度総会

総会は、(一社)名古屋工業会本部より横山理事長を来賓にお迎えして開催しました。

開会のあいさつでは、各務支部長がこの1年を振り返り、新型コロナウイルスが5類に移行して、4年ぶりにすべての行事を行うことができたことや、能登半島地震に対する名古屋工業大学の北川教授による支援活動の紹介、さらに本日の議題などについて説明がありました。

(一社)名古屋工業会 岐阜支部



各務支部長による開会あいさつ

ご来賓の工業会本部の横山理事長のごあいさつでは、母校の状況として、学生の約8割が修士課程に進んでいることなどもご紹介いただき、時代の変化を感じさせられました。

名古屋工業会 岐阜支部 総会



横山理事長による来賓ごあいさつ

議事については、令和5年度の事業報告や収支決算、令和6年度の事業計画や収支予算案、さらに支部会則等の変更についての審議が行われ、すべての議題で承認が得られました。

講演会

総会に先立ち、JR東海でリニア開発にも携わられたシーエヌ建設(株)代表取締役社長の山口義久様(C54)を講師にお迎えして、「鉄道の歴史とリニアの現状」と題してご講演いただきました。

鉄道の変遷、高速輸送の必要性、東海道新幹線についてはTGVとの動力方式の違いなども交えてお話しいただきました。一方で、開業して半世紀以上が経つことから大規模な改修も見据えて、リニア中央新幹線により三大都市圏を高速かつ安全に結ぶ大動脈を二重系化して、巨大地震などの災害リスクに備えるといった整備の意義や、有人走行で時速603kmのギネス記録を持つ車両の概要、現在の事業状況などについて、ご説明いただきました。



ご講演中の山口講師

おわりに

本日ご承認いただいた事業計画に基づき、引き続き支部活動を展開してまいりますので、会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、総会後には懇親会を開き、親交を深め飲食を楽しんでいただきました。

記：岐阜支部幹事 岩田 靖(C59)



岐阜支部総会 集合写真

令和6年・大阪支部「春季歴史探訪の会」開催報告

大和郡山・西ノ京巡り

大阪支部「歴史探訪の会」横山 誠・神戸 孝
奈良部会 西川嘉一

日 時：令和6年4月21日（日） 9：30～16：00

参加者数：23名

訪問地：①郡山町屋物語館 ②郡山箱本館 ③郡山城天守台 ④薬師寺 ⑤唐招提寺

報 告：今回は奈良部会との共同開催です。当日は生憎雨天となりましたが、桜は八重桜が咲き、ボタン、藤の花と新緑が映え、大和郡山と西ノ京の歴史を楽しむ散策会となりました。大和郡山市の語り部に案内いただき、薬師寺では僧侶による有難い法話をいただき充実した歴史探訪となりました。特に大和郡山は再来年の大河ドラマ「豊臣兄弟」で秀吉の弟の豊臣秀長が主演となり、大和郡山を舞台とするドラマ制作が決まっており、市をあげてのドラマ決定を歓迎するムードが高まっておりました。

①郡山町屋物語館

・旧遊郭の建屋を市が買い取って大正・昭和初期の花街の面影を偲ぶことができる資料館になっている。

②郡山箱本館

・豊臣秀長が畿内統合の拠点として郡山城を造り、城下町を箱本として13の町を自治組織として整備し、発展させた資料館である。町中の一番古い町屋が資料館として保存され、当時は藍染を職業とする人々が集まった地域の町屋であり、現在でも藍染体験ができる。

③郡山城天守台

・筒井順慶が最初の城主として郡山城を構える。その後豊臣秀長が紀州、大和、和泉を統合する100万石の城として大規模に整備された。近年城の石垣が修理され、その際石塔などの多くの転用石が確認された。整備された天守台に登ると東大寺、薬師寺、金剛山など

奈良盆地一円が見渡せ、この城が大和を治める最適な場所にあったことが実感できた。

④薬師寺

・薬師寺到着後、僧侶による法話を聴講した。30分間の法話であったが、見事に笑いを取る話しぶりに、最高のセールスマンではないかとする意見も多かった。法話のなかで薬師寺の歴史、仏教の教えなど自然と理解できた。当日は最勝会が行われており、多くの僧侶の行列も確認できた。

⑤唐招提寺

・雨の中を歩いて唐招提寺に到着した。同じ奈良時代のお寺であっても、薬師寺は全て建立当時の姿が見られ、唐招提寺は静かに1300年の時を経た落ち着いた雰囲気があり、鑑真和尚廟のコケが美しかった。

記：横山 誠(K47)・神戸 孝(K50院)
西川嘉一(G50)



郡山城極楽橋にて



薬師寺での法話



唐招提寺にて

東京支部「第66回東京ごきそサロン」報告

第66回東京ごきそサロンが、2024年3月23日（土）14時から八重洲倶楽部で『ロマンのある職場～国税庁勤務を振り返って』をテーマに開かれ、出席者は23名でした。講師は、税理士の秦邦昭氏（B46卒）でした。秦講師は、学部卒業後国家公務員上級甲試験合格、名工大修士課程を経て1973年国税庁に入省。秋田県能代税務署長、日本貿易振興会米国ヒューストン駐在員、国家公務員共済組合連合会経理部長を経て、国税庁各課長、金沢国税局長、徴収部長を歴任、2008年退職。その後公益社団法人日本租研究協会専務理事、東京都足立区代表監査委員等歴任、2019年叙勲「瑞宝中綬章」、2021年税理士登録し、現在に至る。

【講義内容】

エンジニアを目指し入学した名工大で、簿記・会計学に出合い国税の仕事へと導かれ、在学中に公務員試験に合格し院卒後国税庁に入省した。国税庁では、様々な職場・出向・海外駐在・管理職を経験し、退官後は民間の租税研究協会、自治体の常勤監査委員等を務めた。今回の講義内容は、ロマンのある50年の仕事をまとめたものである。

1. 名工大で学んだこと

（昭和42年4月～48年3月：6年間）

- ①青木脩ゼミにおける簿記・会計学の基礎中の基礎を習得できたことが、学生6年間の第一のポイント。
- ②富田嘉郎教授の助け合い、従業員と上司・会社との関係等の人間関係論（「産業社会学」）の重要性
- ③人と仕事（組織）の最適化としての品質管理、組織論、管理論

2. 国税庁の若手時代

（昭和48年4月～平成12年7月：約27年間）

- ①法人税課配属（昭和48年4月）
- ②経済企画庁（現内閣府）出向：専門調査員（昭和53年7月～55年7月：2年間）

多様な人材集団の中、宮澤喜一大臣室、調整局長室での政策決定を聞いて経験

- ③秋田県能代税務署長（昭和55年7月～56年7月：1年間）

関係する市町村、警察署、営林署、商工会等との連携・協調、及び早い段階で取り組んだ租税教育（小中学校での講義）等が、後に血と肉になった。

- ④経済企画庁再出向：主任研究官（昭和56年7月～58年7月：2年間）

1年目石弘光教授、2年目本間正明教授（共に後の税制調査会会長）と出会い、人間関係の重要性を痛感

- ⑤日本貿易振興会米国ヒューストン駐在員（昭和62年5月～平成2年7月：3年間）

投資動向調査（マキラドーラの調査）、帰国直前のヒューストンサミットへの参画、米国43州・メキシコ・欧州7ヵ国訪問で国際的な見聞を広めた。

- ⑥消費税導入（平成元年）に伴う機構改革（課長補佐）（平成2年7月～3年7月：1年間）

税目別組織（所得税、法人税、間税等の部門）から納税者別組織（個人課税、法人課税等の部門）への機構改革

- ⑦国家公務員共済組合連合会出向（経理部長）（平成9年7月～12年7月：3年間）

年金給付事務、病院・宿泊等の福利厚生事業、大手金融機関の連続する経営破綻等のなかでの年金原資の管理と運用で日々奮闘等を経験した。

3. 国税庁の管理職時代

（平成12年7月～平成20年7月：8年間）

- ①法人税課長（平成12年7月～13年7月：1年間）
認定NPO法人制度創設と寄付金制度に関与
- ②事務管理課長（平成14年7月～16年7月：2年間）
財政の根幹を支える業務という意識（公務員の矜持）を強く持つ、システムの安全性・信頼性確保に対処（国税事務処理、E-taxの運用開始等）
- ③管理課長（平成16年7月～17年7月：1年間）

租税納付方法の多様化と納税者の利便の向上
(振替納税・インターネットバンキング、現在ではさらにコンビニ納付等に拡大)

- ④金沢国税局長(平成17年7月～18年3月：約1年間)

消費税大改正(個人事業者売上高3千万円以下免税⇒1千万円以下免税)の対応、税の広報マン(納税の理解)とマスコミとの緊密な関係の確立、国民文化祭と皇太子(現天皇陛下)の御休憩所へのご案内での緊張感

- ⑤徴収部長(平成18年3月～20年7月：約2年間)
学んだ品質管理が生きた一元化(内部事務・窓口業務)と業務の見える化の推進

4. 国税庁退職後の仕事

(平成20年7月～令和2年10月：約12年間)

- ①日本租税研究協会(「租研」という)専務理事
(平成20年7月～28年9月：約8年間)

経済界・学者・実務家が中心となって、民間の立場から財政・税制を調査・研究・政府へ提言する団体

- ②東京都足立区代表監査委員(常勤)(平成28年10月～令和2年10月：4年間)

足立区の監査は厳しく頻度も多く、監査委員4名(うち常勤は1名8:30～17:15勤務)は、課単位(対象：課長・係長)の監査をはじめ多様な監査事務に従事。刺激と緊張感のある仕事であった。

5. 50年間の仕事を通しての所感

- ①人間関係の重要性

若い時に多様な仕事に従事するが、その時得た人間関係が重要で何十年後に生かされる。

- ②1、2年で仕事が替わる。

- ・日々の仕事への取り組み「努力、忍耐、勤勉」(日々の仕事を学ぶこと)が大切
- ・失敗は回復可能：人事評価は厳格に行うので、仕事が替わる⇒回復の可能性あり⇒前向きに取り組める。

- ④反省点(大切なもの)

語学への苦手意識、忘却のほうが多い記録、幅広い知見・知識の習得

6. 最後に

- ①1、2年で異動のなか、いろいろな経験ができたが、その基礎は名工大にあった。

- ②総じて恵まれた職場環境の下で、多くの方々とふれあう中で、豊かな経験と楽しい仕事をさせていただいたことに感謝

講義終了後、「財政状況(財政バランス)は?」、「足立区の監査報告書の提出先は?」等、多岐にわたる6件の質疑応答があり、懇親を深めて盛況に終えることができました。

記：福間 洋二(M49)



講師



講義中①



講義中②

第16回 名古屋工業会大阪支部交流サロンの開催報告(Web講演)

令和6年4月13日(土)に会員相互の親睦と交流を目的に、若手・女性部会主催の「第16回名古屋工業会大阪支部交流サロン(Web講演)」を開催いたしました。若手現役やシニアも含めた楽しい交流会となりました。

東京ごきそサロンへの案内も行い、初参加の18名を含め、58名の多数参加となりました。懇親会はございませんでしたが、講演と質疑、懇談で約3時間の賑やかな交流会となりました。

講演は、『地球上のどこでも誰でも数時間で建てられて酷暑でも極寒でも快適なインスタントハウス』と題して、令和6年能登半島地震の被災地で、講演者が開発した簡易住宅「インスタントハウス」の活用と普及について、ご説明頂

きました。先生の活動状況については、地震発生以来、新聞、テレビ等で詳しく報道されておりますが、改めて交流サロンでご紹介頂きました。今般注目の話題となっており、多くの方々のご参加を頂きました。

また、名古屋工業会大阪支部をはじめ、個人の方々からも名工大基金「令和6年能登半島地震被災地への簡易住宅(インスタントハウス)設置支援」に寄付をさせて頂きました。

Web会議が初めての方には事前に接続テストも実施いたしました。

監修：北川啓介(名古屋工業大学大学院工学研究科 教授)、

記：坪田博隆(M51)

1、屋外用インスタントハウス：北川研究室HPより



2、屋内用インスタントハウス：北川研究室HPより



3、「名古屋工業大学レポート2023」* P13 北川先生その1

どこでも誰でも数時間で建てられて 酷暑でも極寒でも快適な『インスタントハウス』

私が研究・開発したインスタントハウスは、わずか数時間で建てることのできる簡易住宅です。気球のように膜素材を空気で膨らませて屋根と壁を作り、内側に空気含有量の高い断熱材を吹き付けるだけで建物ができあがるので、一般の住宅と比べて建築費も安く抑えることができます。風雨に強く、風速80mの台風でも本体はビクとも

しません。被災地や途上国などがなく困っている方に安心して住まえる場所を提供することを目的に研究開発しました。

「安くてすぐに建てられる家」という構想を立ち上げた後の数年間は、いいアイデアが浮かんでも失敗続きでした。しかし、ある日カバンの中で小さく丸めてあったダウンジャケットが、カバンから取り出した瞬間に膨らんで元に戻るのを見て、建物全体に空気を多分に含ませる構造を思いつきました。空気を材料にすれば断熱効果も遮音効果も得られますし、費用もかかりません。

こんなに軽くてメリットのある構造をなぜ誰も思いつかなかったのでしょうか？そこで初めて、理想的な住まいに必要なのは従来の建築の逆の発想だと気づきました。部

材が大きい、重い、多いなど、既存の建築物の特徴を思いつくかぎりノートに書き出し、その反対語を並べたものをインスタントハウスの基本方針としました。

従来の建物は構成している部材が重くて種類が多いので、たくさんの職人さんがが必要です。私はまず、足場、基礎、壁、屋根を順に建てなくても済むように、円柱形の壁と円錐形の屋根を一体化して空気で膨らます構造にしました。空気を抜いて畳むことができれば、建設地までの運搬も容易です。

大量のペンシルバルーンや大きなスポンジなど様々な材料を使って試行錯誤を繰り返して、2016年にようやく第1号が完成しました。特許出願後は、かたち、色、大きさを変えるなどバリエーションを増やしてバージョンアップを図りつつ、製造と販売を行う大学発ベンチャーを起業し、名工大での研究と相乗効果を為しながら、国内外に普及しています。



インスタントハウスの開口部の施工の様子

4、「名古屋工業大学レポート2023」* P14 北川先生その2

「大学の先生なら来週建ててよ」 被災地の小学生の悲痛な訴えがきっかけに

インスタントハウスの開発を始めたのは2011年。きっかけは東日本大震災の被災地の避難所を訪れたときでした。それまでの私は、美しくかっこいい建築物を実現したくて、自分の設計のスキルとセンスを磨くことに懸命になっていたのですが、ここで出会った小学生のふたりの男の子が、私の人生を180度変えてくれたのです。

私は避難所になっていた石巻中学校の体育館を訪れました。見学を終えて帰ろうとしたその時、ふたりの小学生が私の手を引き、グラウンドが見える場所まで連れていき、「あそこに仮設住宅が建つのに、なんで3カ月から6カ月かかるの？大学の先生

だったら来週建ててよ！」と悲痛な表情で訴えました。まるで時間が止まったように、私はその場に立ち尽くしていました。

翌日、名古屋への飛行機の中でも子ども達の言葉が頭から離れず、自然と涙が頬を伝う中、今までの自分を振り返りました。思い起こせば、学生の頃から、世界中の美しい建築や都市を実際に体感すべく旅する中で、それらよりも、空港や駅に降り立つと手を差し伸べてきた幼い子ども達のが気になるって仕方なかった。もう一度原点に帰って、あの子ども達の想いに応えよう。その時の決意がインスタントハウスの実現につながったのです。

NI Tech voice

教授は教授、学生は学生の研究で個性を伸ばしてくれる研究室です

私はもともと構造に興味があり、地震や津波に耐える家を実現したいという想いから建築の道に進みました。インスタントハウスという発想はとても興味深く、研究段階から間近で現物を見られることで多くの学びがあります。私が取り組んでいるのは、その土地の気候や文化、伝統など、地域性を活かした住宅設計の確立です。北川啓介研究室では、個々の学生の研究や夢を最大限に尊重していただけるので、個性や独立心を高め、常に前向きな気持ちで研究に挑む毎日を過ごしています。



加藤 唯さん 大学院工学研究科工学専攻社会工学系プログラム
(博士前期課程1年)

5、「名古屋工業大学レポート2023」* P14 北川先生その3

トルコ・シリア大地震の被災地にインスタントハウスを寄贈 フードロスによる建築断熱材など新たな研究テーマも

インスタントハウスは、仮設住宅だけでなくグランピング用の施設としても注目され、北海道から九州、沖縄まで日本各地に建つようになりました。売上げも順調に伸び、「私の収益は寄付する」という開発当初からの決め事をようやく実行できるようになった矢先の2023年2月にトルコ・シリア大地震が起きました。

以前に本学の高度防災工学研究センターのメンバーとしてフィリピン・ボホール島の支援をした経験がありましたので、その時の人と人のネットワークを活かしてJICA(国際協力機構)のトルコ事務局に連絡を取り、現地の政府や企業や大学に繋いでいただきました。3月中旬に被災地へ入り、現地の知事や市長とも打合せ、省庁、NGO、企業や名工大からの支援も受け、翌月には、被害の大きかったトルコとシリアの国境に近いアンタキヤ市に大小3棟のインスタントハウスを建てて寄贈しました。

現場での作業に参加した方、屋内を見学した避難者からは、「こんなに早くできるのか」「外は30度以上あるのに中はとても涼しい」などの感想をいただきました。特に嬉しかったのは「心が安らぐ」という感想でした。オスマントルコのモスクの形状に似ていて、天井が高く円い形状は、やはり人にとって心地良いのです。これらの成果により、急速に国外での評価が高まり、世界中の被災地にインスタントハウスを続々と寄贈していく運びとなりました。



トルコで被災した子どもたちと住みたい家について対話

今後は、インスタントハウスの原価をもっと下げ、より多くの人々に満足した家を提供していきます。また、食品工場で廃棄されるフードロスにあるでんぶ系素材などをインスタントハウスの材料に使うことで、環境負荷ゼロの家とする研究、ナメクジの生態を活かした外壁の洗浄やコーティングの研究、古民家の断熱耐震補強とする研究などを進めています。これからも従来の常識を逆照射しつつ、新しい建物のカタチを模索していきます。



トルコ・アンタキヤ市の被災地に3棟のインスタントハウスを寄贈

*「名古屋工業大学レポート2023」は、名古屋工業大学で発行しております。
下記リンク先または、QRコードより是非ご覧ください。
HP : <https://www.nitech.ac.jp/intro/report.html>
(名古屋工業大学へ掲載許可を得ています。)



令和5(2023)年度「計測会賞」を授与

2023年度の計測会賞を授与した。受賞者は物理工学科応用物理分野を卒業された坂本悠斗さん。

卒業式の日にとり行われた学位記授与式の間をお借りした(写真1)。3月26日12時45分、2号館0232教室。計測会賞の表彰状と記念品(写真2)を贈った。少し緊張気味の坂本さん、受賞が心の糧になればと願っています。

計測会賞は、応用物理分野の卒業生から成績優秀な学生1名を表彰する。歴史を刻んでおり、学生の間ではブランドある賞とも漏れ聞く。これからも継続し、価値を高めたいと思う。

続いて、喜びと期待と不安が入り混じった門出の50名あまりを前に、「皆さんは今日から計測会の会員です。メールアドレスを登録下さ

い」。昨年から配布し始めた“計測会のしおり”(写真3)を手に、「QRコードを開き連絡できるメールアドレスの入力を」と、お願いした。早速その日の内に8名程の方からの登録メールを受信。昨年より倍増！

更に、卒業のはなむけに、2つのことばを贈った(写真4)。

これから社会へ出られる方、進学される方、ともども大切にしていきたいと思っています。

まず一つは、「答えは自ら見出す」。今までは、答えがあり、そこにいかにしてたどり着くかという取り組みが、どちらかというと多かったのではないのでしょうか。これから遭遇される多くは、答えが決まっていません。皆さん自身が答えを見出さねばならないのです。自ら考え、判断し、答えを決めていくのです。



写真1. 計測会賞を授与
受賞者は坂本悠斗さん



写真2. 記念品は高級なボールペン



写真3. 計測会しおり「入会の案内」



写真4. 2つのことばを贈った

「できない理由ではなく、どうしたらできるか」を「常識にとらわれすぎず」、且つ「原理・原則に則って」考え、行動してください。おのずと答がみえてくるでしょう。

答えは自ら見出す、大切にしてください。

もう一つは、「目標は高く掲げる」。目標は、ものづくりの目標、研究の目標、更には人生の目標などさまざまです。いずれも、自分の目線より、1ランク、2ランク高い目標を掲げるといふ思いを大切にしてください。

ものづくりを例にとると、自分の思いをもので表現し、お客様の笑顔を実現する。やりがいのいっぱい詰まった世界です。だが、楽ではありません。同じ汗をかくなら、日本、いや世界No.1を目指して欲しいと思います。「世界No.1を目指そう」と思うことが大切です。思えば、それがスタートラインを切ることです。

もちろん、達成できるとは限りません。しかし、そのチャレンジは、皆さん自身を成長させ、次の取り組みを成功へ導く原動力になります。

「目標を高く掲げ」、「答えは自ら見出す」

新たな計測会員の皆さん、大切にしてください。

記：計測会会長 寺倉 修(F50)



第137回 名工大ごきそ会報告

第137回名工大ごきそ会は、令和6年4月9日(火)名古屋市守山区に位置する緑ヶ丘カンツリークラブで12名の参加を得て開催されました。早朝は大雨であったため、念のために開催時間を遅らせたが、当初予定の9時半頃には雨も止み、また、午後には快晴となり桜吹雪を愛でながらのゴルフ日和になりました。

今回の優勝者は当クラブメンバーの市橋洋志さんで、グロス106、ネット70のスコアでした。

今回は2日前に一通り回りじっくり練習されたとのことで、OUT/INとも安定したスコアを出され見事優勝を獲得されました。準優勝者は篠田陽史さんで、グロス91、ネット79の成績でした。INの追い込みがすばらしく、本日のベストスコア39を出されました。第3位は平岡雄偉さんで、グロス90、ネット79の成績でした。

BB賞は伊佐治武さんが獲得されました。特別賞として、ベストグロス賞は当クラブメンバーの梶原俊彦さんでグロス87の立派な成績でした。ニアピン賞は梶原さん、伊佐治さん、篠田さん、山田がそれぞれ獲得しました。また、バーディー賞も上記4名という結果でした。おしどり賞は平岡さん、大波賞は篠田さん、汗闘賞は伊藤さん、になりました。

今回は当初雨で空いていたためプレーも早く上がり、懇親会もゆっくりとした中、次回の予定を確認し散会となりました。次回は、代表幹事の篠田様のご紹介で5月31日(金)みよし市に位置する三好CCでの開催を予定しております。

名工大ごきそ会では、新会員を募集しております。愛知県内のゴルフクラブで年4回開催しています。気楽にプレーできますので、興味のある方は山田までご連絡ください。(E-mail:kazuoy50@hm10.aitai.ne.jp)

記：山田 和男(E47)



名古屋工業大学管弦楽団OB会 第22回定期演奏会の御案内

下記の通り御案内致しますので、是非、お気軽にお越し下さい。

日 時：2024年8月18日(日) 開場 13:00 開演 13:30

場 所：愛知県芸術劇場コンサートホール

入場料：1,000円 全席自由席 (当日券有り)

*チケットぴあ、芸文プレイガイドにてチケット販売予定

曲 目：ドビュッシー作曲 牧神の午後への前奏曲

交響詩『海』

ヘルリオーズ作曲 幻想交響曲

指 揮：高橋 直史 大阪交響楽団首席客演指揮者/金城学院大学教授

問い合わせ先：F55 野村正裕 nomura_yashiro@yahoo.co.jp

<http://www.hnk.sakura.ne.jp/nitoborchestra/index.html>

【名工大管弦楽団OB会とは】

名工大管弦楽団のOB・OGが、全国から集まり演奏会を行っています。

1975年に第1回の演奏会を開催してから、約2年に1回のペースで継続しており、来年は開始してから50年になります。

また、現役学生管弦楽団とも積極的に交流しておりますが、現役の方は、本年12月21日に第120回の記念定期演奏会を行う予定です。こちらへも是非、お越し下さい。

<お知らせ>

会誌「ごきそ」は、春夏秋冬の4回の発行となり、毎回、ホームページに掲載します。

年1回正会員全員に印刷した会誌「ごきそ」をお送りします。

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・パンフレット・ポスター 定期刊行物 etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げられたノウハウはDTPにおいて、特に不得意とされる版組みの書籍・表組みの買物も得意分野です。

印刷

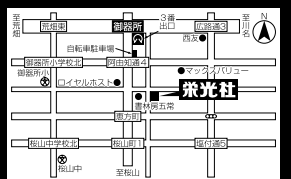
カラー印刷：2色刷り・1色刷り・特色刷り、品質・部数・ご予算に応じて提供いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太郎等の通常オフセット印刷に適さないWindowsデータの出力ノウハウもありますのでご相談ください。

製本

自分史・体験記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・雑誌・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本でお困りの学生・法人の方、少ロットよりお手伝いします。

総合印刷の
有限会社 栄光社

〒466-0035 名古屋市昭和区松風町三丁目4番地 2F
TEL (052) 848-6148
FAX (052) 848-6518
URL <http://www2.ocn.ne.jp/eik/>
E-mail eikou@theia.ocn.ne.jp



「本気」で結婚を目指す 名古屋工業大学会員様の 「成婚」をサポートいたします。

46年の実績

名古屋工業大学コース

通常登録料
33,000円(税込) ▶ 0円

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。
46年に渡るノウハウでお子様との会話の秘訣をお伝えしています。
HP・フリーコールよりお気軽にご相談ください。



あなたと未来をつくる
Bridal
<https://www.bridal-vip.co.jp/>

0120-415-412
営業時間：平日 10:00~20:00 / 土・日・祝 10:00~18:00
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始



あなたも会誌「ごきそ」へ投稿してみませんか?

一般社団法人名古屋工業会（名古屋工業大学全額同窓会）では、会誌「ごきそ」を幅広い年代の方が交流できるツールとして活用いただけるよう、同窓生の皆様からの御寄稿をお待ちしております。

- ・研究紹介、講座 ・支部報告 ・見学会報告 ・ゴルフ報告
- ・名工大生の様々な活動を紹介 ・随筆、紀行
- ・俳句・詩などの文芸、会員の著書・展覧会などの寸評、その他御自由な意見等

詳細につきましては、お気軽にお問合せください。

E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp

(名古屋工業会事務局 宛)

会誌「ごきそ」に広告を掲載しませんか?

会誌「ごきそ」は、春・夏・秋・冬の年4回発行し、4回のうち1回は、正会員全員に印刷した会誌「ごきそ」をお送りします。

なお、名古屋工業会のホームページには毎号掲載致します。

詳細は名古屋工業会のホームページにて御確認ください。

<https://www.nagoya-kogyokai.jp/koukoku>